

0001

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：基礎

問題

「発達段階・前言語期」の発達マイルストーンを確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：18か月頃の表出言語を整理する：過去と未来を含む物語を話す
イ：1歳頃のコミュニケーション発達を整理する：『バイバイ』と手を振る
ウ：2歳頃の言語発達を知る：成人同様の談話能力を示す
エ：共同注意の意義を整理する：失認

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。より後の発達である。
イ：この対応は適切である。身振りによる社会的コミュニケーションの一例である。
ウ：この対応は不適切である。年齢に合わない。
エ：この対応は不適切である。高次認知障害ではない。

総合解説：1歳頃は身振り、親の呼称、簡単な語理解などが重要な観察点になる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0002

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：標準

問題

「発達段階・前言語期」について18か月頃の表出言語を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：2歳頃の言語発達を知る：『もっと 牛乳』のように少なくとも二語を組み合わせる
イ：18か月頃の表出言語を整理する：五語文を常用する
ウ：共同注意の意義を整理する：共同注意
エ：前言語期の評価項目を統合できる：遊び、身振り、視線、発声、共同注意など非言語的コミュニケーションも詳しくみる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。CDCは2歳の目安として二語結合を挙げている。
イ：この対応が誤りである。一般に18か月の目安ではない。
ウ：この対応は正しい。他者と同じ対象へ注意を共有する行動である。
エ：この対応は正しい。言語が未発達な段階では前言語行動の評価が重要である。

総合解説：語数だけでなく、指さし、理解、身振り、相互作用もあわせてみる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0003

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：基礎

問題

発達段階・前言語期の学習で発達マイルストーンを行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：2歳頃の言語発達を知る：『もっと 牛乳』のように少なくとも二語を組み合わせる
イ：共同注意の意義を整理する：失認
ウ：前言語期の評価項目を統合できる：表出語数だけで全て判断する
エ：3歳頃の会話発達を整理する：成人と同等の専門用語を使う

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。CDCは2歳の目安として二語結合を挙げている。
イ：この対応は不適切である。高次認知障害ではない。
ウ：この対応は不適切である。前言語行動を見落とす。
エ：この対応は不適切である。求められる目安ではない。

総合解説：二語結合は語彙から初期文法への発達をみる重要な所見である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0004

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：標準

問題

「発達段階・前言語期」に関する知識を横断して確認する。共同注意の意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：前言語期の評価項目を統合できる：遊び、身振り、視線、発声、共同注意など非言語的コミュニケーションも詳しくみる
イ：3歳頃の会話発達を整理する：少なくとも2往復程度のやり取りを含む会話をする
ウ：前言語期の身振りを整理する：指さしや手渡しなどの身振り
エ：共同注意の意義を整理する：発話失行

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。言語が未発達な段階では前言語行動の評価が重要である。
イ：この対応は正しい。3歳頃には会話の往復が発達する。
ウ：この対応は正しい。身振りは要求・共有・拒否などを表す。
エ：この対応が誤りである。獲得後の運動性発話障害である。

総合解説：共同注意は語彙獲得や社会的コミュニケーションの基盤となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0005

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：応用

問題

発達段階・前言語期の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

- ア： 前言語期の評価項目を統合できる：遊び、身振り、視線、発声、共同注意など非言語的コミュニケーションも詳しくみる / 3歳頃の会話発達を整理する：少なくとも2往復程度のやり取りを含む会話をする
- イ： 前言語期の身振りを整理する：不随意的筋収縮 / 発達の個人差を適切に扱える：年齢を考えず全員同じ基準で判断する
- ウ： 発達退行を重要所見として判断できる：発達退行として速やかに包括的な発達・医学評価につなげる / 4～5歳の言語発達を整理する：身振りだけで全て伝える
- エ： 1歳頃のコミュニケーション発達を整理する：二語文を安定して使う / 18か月頃の表出言語を整理する：『ママ』『パパ』以外の語を3語以上言おうとする

答え・解説

正答：ア

- ア： とも正しい。 言語が未発達な段階では前言語行動の評価が重要である。 3歳頃には会話の往復が発達する。
- イ： に誤りを含む。 伝達意図とは異なる。 発達段階を考慮する。
- ウ： は正しいが に誤りがある。 年齢相応の言語発達ではない。
- エ： に誤りがある。 CDCでは2歳頃の目安に含まれる。 は正しい。

総合解説：ASHAはLLE評価で遊び、身振り、非言語的相互作用を重視している。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0006

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：標準

問題

「発達段階・前言語期」について3歳頃の会話発達を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：前言語期の身振りを整理する：指さしや手渡しなどの身振り
- イ：3歳頃の会話発達を整理する：他者とのやり取りを全くしない
- ウ：発達の個人差を適切に扱える：個人差を認めつつ、複数の目安を満たさない場合や家族に懸念があれば評価へつなげる
- エ：発達退行を重要所見として判断できる：発達退行として速やかに包括的な発達・医学評価につなげる

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。身振りは要求・共有・拒否などを表す。
- イ：この対応が誤りである。典型的な目安とは異なる。
- ウ：この対応は正しい。マイルストーンは観察の目安であり、懸念時にはスクリーニングや評価が必要である。
- エ：この対応は正しい。獲得済み能力の喪失は単なる個人差として扱わない。

総合解説：3歳頃には質問、動作語の使用、会話の往復などが発達する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0007

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：基礎

問題

発達段階・前言語期の学習で身振りを行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：発達の個人差を適切に扱える：年齢を考えず全員同じ基準で判断する
イ：発達退行を重要所見として判断できる：発音だけの問題と決めつける
ウ：4～5歳の言語発達を整理する：二語結合が初めて出るだけ
エ：前言語期の身振りを整理する：指さしや手渡しなどの身振り

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。発達段階を考慮する。
イ：この対応は不適切である。言語・社会性など広く評価する必要がある。
ウ：この対応は不適切である。一般にはより早期の段階である。
エ：この対応は適切である。身振りは要求・共有・拒否などを表す。

総合解説：前言語コミュニケーションは後の語彙・語用発達へつながる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0008

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：標準

問題

「発達段階・前言語期」に関する知識を横断して確認する。発達の個人差を適切に扱えるうえで誤っている対応はどれか。

ア：発達退行を重要所見として判断できる：発達退行として速やかに包括的な発達・医学評価につなげる
イ：発達の個人差を適切に扱える：個人差があるので発達評価は不要とする
ウ：4～5歳の言語発達を整理する：より長く複雑で文法的な文を使い、人物や場面を含む物語を話す
エ：1歳頃のコミュニケーション発達を整理する：『バイバイ』と手を振る

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。獲得済み能力の喪失は単なる個人差として扱わない。
イ：この対応が誤りである。懸念があれば評価が必要である。
ウ：この対応は正しい。4～5歳では文法や物語能力が発達する。
エ：この対応は正しい。身振りによる社会的コミュニケーションの一例である。

総合解説：CDCのチェックリストは診断用ではなく、発達モニタリングのための資料である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0009

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：応用

問題

「発達段階・前言語期」について発達退行を重要所見として判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 1歳頃のコミュニケーション発達を整理する：読み書きを独力で行う / 18か月頃の表出言語を整理する：五語文を常用する

イ： 2歳頃の言語発達を知る：『もっと 牛乳』のように少なくとも二語を組み合わせる / 共同注意の意義を整理する：失認

ウ： 発達退行を重要所見として判断できる：発達退行として速やかに包括的な発達・医学評価につなげる / 4～5歳の言語発達を整理する：より長く複雑で文法的な文を使い、人物や場面を含む物語を話す

エ： 前言語期の評価項目を統合できる：表出語数だけで全て判断する / 3歳頃の会話発達を整理する：少なくとも2往復程度のやり取りを含む会話をする

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 1歳の典型的目安ではない。 一般に18か月の目安ではない。

イ： は正しいが に誤りがある。 高次認知障害ではない。

ウ： とも正しい。 獲得済み能力の喪失は単なる個人差として扱わない。 4～5歳では文法や物語能力が発達する。

エ： に誤りがある。 前言語行動を見落とす。 は正しい。

総合解説：発達歴では獲得時期だけでなく、失った能力の有無も確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0010

正常発達と評価 > 発達段階・前言語期 | 難易度：標準

問題

「発達段階・前言語期」について4～5歳の言語発達を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：1歳頃のコミュニケーション発達を整理する：『バイバイ』と手を振る

イ：4～5歳の言語発達を整理する：語の理解が一切ない

ウ：18か月頃の表出言語を整理する：『ママ』『パパ』以外の語を3語以上言おうとする

エ：2歳頃の言語発達を知る：『もっと 牛乳』のように少なくとも二語を組み合わせる

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。身振りによる社会的コミュニケーションの一例である。

イ：この対応が誤りである。評価が必要な所見である。

ウ：この対応は正しい。18か月の目安として示されている。

エ：この対応は正しい。CDCは2歳の目安として二語結合を挙げている。

総合解説：就学前には文の複雑性、物語構成、会話能力がさらに伸びる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0011

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：基礎

問題

言語・コミュニケーション評価の学習で評価原則を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：理解と表出を分けて評価できる：身長と体重
イ：言語サンプルの意義を整理する：純音閾値だけを測る
ウ：系統的観察を整理する：発話量が少なければ即座にDLDと診断する
エ：言語評価の多面的構成を整理する：理解・表出、音韻、語彙、文法、語用、機能的コミュニケーション

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。言語症状の区別ではない。
イ：この対応は不適切である。聴覚検査である。
ウ：この対応は不適切である。鑑別が必要である。
エ：この対応は適切である。言語は複数領域から成るため多面的評価が必要である。

総合解説：評価目的に応じ標準検査、言語サンプル、観察、家族情報を組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0012

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「言語・コミュニケーション評価」に関する知識を横断して確認する。理解と表出を分けて評価できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：言語サンプルの意義を整理する：遊びや会話など自然に近い場面で語彙・文法・談話の実際の使用を分析する
イ：理解と表出を分けて評価できる：昼と夜
ウ：系統的観察を整理する：複数場面での系統的観察と保護者・園からの情報
エ：動的評価の目的を統合して整理する：教示前後の変化や学習可能性をみて、既習経験の差だけでは説明できない困難を検討する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。言語サンプルは標準検査を補完する実用的な情報源である。
イ：この対応が誤りである。言語領域ではない。
ウ：この対応は正しい。場面依存性を確認するには複数文脈の情報が必要である。
エ：この対応は正しい。動的評価はtest－teach－retestなどで学習可能性をみる。

総合解説：言語障害では受容優位・表出優位などプロフィールが異なる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0013

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：基礎

問題

「言語・コミュニケーション評価」の自然発話評価を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：系統的観察を整理する：発話量が少なければ即座にDLDと診断する
イ：言語サンプルの意義を整理する：遊びや会話など自然に近い場面で語彙・文法・談話の実際の使用を分析する
ウ：動的評価の目的を統合して整理する：家庭言語を禁止するため
エ：保護者面接の役割を整理する：検査者の好みだけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。鑑別が必要である。
イ：この対応は適切である。言語サンプルは標準検査を補完する実用的な情報源である。
ウ：この対応は不適切である。目的ではない。
エ：この対応は不適切である。評価情報ではない。

総合解説：MLUや語彙多様性、発話機能などを分析できる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0014

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「言語・コミュニケーション評価」について系統的観察を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：動的評価の目的を統合して整理する：教示前後の変化や学習可能性をみて、既習経験の差だけでは説明できない困難を検討する
イ：保護者面接の役割を整理する：発達歴、言語使用環境、家族の懸念、日常のコミュニケーション
ウ：聴覚確認の必要性を整理する：聴力低下が言語理解・表出の発達に影響することがあるため
エ：系統的観察を整理する：検査室だけの一回観察で全て判断する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。動的評価はtest – teach – retestなどで学習可能性をみる。
イ：この対応は正しい。日常場面とこれまでの発達経過を把握できる。
ウ：この対応は正しい。言語評価では聴覚状態の確認が重要である。
エ：この対応が誤りである。文脈差を見落とす。

総合解説：コミュニケーション能力は相手・環境・課題により変化する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0015

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：応用

問題

「言語・コミュニケーション評価」について動的評価の目的を統合して理解するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 聴覚確認の必要性を整理する：耳の評価で文法能力まで全て分かるから / 語用評価を整理する：単語の文字数だけ数える

イ： 標準検査の限界を整理する：標準検査だけで否定せず、自然場面の観察や言語サンプル、語用評価を追加する / 機能的コミュニケーションを整理する：発話音の正確さだけ

ウ： 動的評価の目的を統合して整理する：教示前後の変化や学習可能性をみて、既習経験の差だけでは説明できない困難を検討する / 保護者面接の役割を整理する：発達歴、言語使用環境、家族の懸念、日常のコミュニケーション

エ： 文化・言語背景を評価に反映できる：学校言語だけで全て判断する / 評価結果から目標設定へつなげられる：強みと困難、生活への影響を整理し、本人・家族と優先目標を設定する

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 言語評価も別に必要である。 語用能力を評価できない。

イ： は正しいが、 に誤りがある。 機能的コミュニケーションの一部にすぎない。

ウ： とも正しい。 動的評価はtest－teach－retestなどで学習可能性をみる。 日常場面とこれまでの発達経過を把握できる。

エ： に誤りがある。 言語経験を過小評価する。 は正しい。

総合解説：多言語児では単一言語の規準得点だけに依存しない評価が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0016

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「言語・コミュニケーション評価」に関する知識を横断して確認する。保護者面接の役割を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：聴覚確認の必要性を整理する：聴力低下が言語理解・表出の発達に影響することがあるため

イ：語用評価を整理する：会話の開始・応答・話題維持・修復・身振りの使用を観察する

ウ：保護者面接の役割を整理する：子どもの血液型だけ

エ：標準検査の限界を整理する：標準検査だけで否定せず、自然場面の観察や言語サンプル、語用評価を追加する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。言語評価では聴覚状態の確認が重要である。

イ：この対応は正しい。語用は文脈内での言語使用を扱う。

ウ：この対応が誤りである。通常の言語評価の中心ではない。

エ：この対応は正しい。構造化検査では実生活の困難を捉えきれないことがある。

総合解説：保護者・教師・本人からの情報は標準検査を補う。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0017

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：基礎

問題

「言語・コミュニケーション評価」の鑑別を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：聴覚確認の必要性を整理する：聴力低下が言語理解・表出の発達に影響することがあるため
イ：語用評価を整理する：単語の文字数だけ数える
ウ：標準検査の限界を整理する：家族の訴えを無視する
エ：機能的コミュニケーションを整理する：検査得点だけ

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。言語評価では聴覚状態の確認が重要である。
イ：この対応は不適切である。語用能力を評価できない。
ウ：この対応は不適切である。重要な情報源である。
エ：この対応は不適切である。生活場面の遂行を示さないことがある。

総合解説：聞こえの問題を見逃さず、必要なら聴覚専門職へつなげる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0018

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「言語・コミュニケーション評価」について語用評価を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：標準検査の限界を整理する：標準検査だけで否定せず、自然場面の観察や言語サンプル、語用評価を追加する
イ：語用評価を整理する：舌圧だけを測る
ウ：機能的コミュニケーションを整理する：日常場面で本人が要求・拒否・共有・質問などをどの程度達成できるか
エ：文化・言語背景を評価に反映できる：可能な範囲で両言語の情報を集め、言語経験と文化的規範を考慮する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。構造化検査では実生活の困難を捉えきれないことがある。
イ：この対応が誤りである。口腔運動評価である。
ウ：この対応は正しい。実際の参加場面で目的を果たせるかをみる。
エ：この対応は正しい。一つの言語だけの低得点で障害と断定しない。

総合解説：社会的コミュニケーションは自然場面での観察が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0019

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：応用

問題

「言語・コミュニケーション評価」の検査解釈について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア：文化・言語背景を評価に反映できる：保護者から家庭言語の情報を得ない / 評価結果から目標設定へつなげられる：得点を伝えて終了する

イ：標準検査の限界を整理する：標準検査だけで否定せず、自然場面の観察や言語サンプル、語用評価を追加する / 機能的コミュニケーションを整理する：日常場面で本人が要求・拒否・共有・質問などをどの程度達成できるか

ウ：言語評価の多面的構成を整理する：理解・表出、音韻、語彙、文法、語用、機能的コミュニケーション / 理解と表出を分けて評価できる：右耳と左耳だけ

エ：言語サンプルの意義を整理する：MRI画像を得る / 系統的観察を整理する：複数場面での系統的観察と保護者・園からの情報

答え・解説

正答：イ

ア：に誤りを含む。重要な情報である。支援計画が必要である。

イ：とも正しい。構造化検査では実生活の困難を捉えきれないことがある。実際の参加場面で目的を果たせるかをみる。

ウ：は正しいがに誤りがある。聴覚も重要だが言語の受容・表出区別が中心である。

エ：に誤りがある。神経画像ではない。は正しい。

総合解説：複数データを収束させて判断するのが包括評価の基本である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0020

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「言語・コミュニケーション評価」に関する知識を横断して確認する。機能的コミュニケーションを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：文化・言語背景を評価に反映できる：可能な範囲で両言語の情報を集め、言語経験と文化的規範を考慮する

イ：機能的コミュニケーションを整理する：身長だけ

ウ：評価結果から目標設定へつなげられる：強みと困難、生活への影響を整理し、本人・家族と優先目標を設定する

エ：言語評価の多面的構成を整理する：理解・表出、音韻、語彙、文法、語用、機能的コミュニケーション

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。一つの言語だけの低得点で障害と断定しない。

イ：この対応が誤りである。無関係である。

ウ：この対応は正しい。評価は診断だけでなく支援計画につなげる。

エ：この対応は正しい。言語は複数領域から成るため多面的評価が必要である。

総合解説：音声だけでなく身振り、絵、AACなど利用可能な手段を含める。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0021

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：標準

問題

「言語・コミュニケーション評価」の文化言語を確認する。次の対応のうち、誤っているものはどれか。

ア：評価結果から目標設定へつなげられる：強みと困難、生活への影響を整理し、本人・家族と優先目標を設定する

イ：言語評価の多面的構成を整理する：理解・表出、音韻、語彙、文法、語用、機能的コミュニケーション

ウ：文化・言語背景を評価に反映できる：二言語使用そのものを障害とみなす

エ：理解と表出を分けて評価できる：受容言語と表出言語

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。評価は診断だけでなく支援計画につなげる。

イ：この対応は正しい。言語は複数領域から成るため多面的評価が必要である。

ウ：この対応が誤りである。多言語使用は障害ではない。

エ：この対応は正しい。理解と表出は別々に評価する必要がある。

総合解説：多言語評価では言語差と障害を区別することが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0022

正常発達と評価 > 言語・コミュニケーション評価 | 難易度：基礎

問題

「言語・コミュニケーション評価」について評価結果から目標設定へつなげられるために、関連概念を整理した。正しい対応はどれか。

ア：言語評価の多面的構成を整理する：発声時の音量だけ

イ：理解と表出を分けて評価できる：身長と体重

ウ：評価結果から目標設定へつなげられる：強みと困難、生活への影響を整理し、本人・家族と優先目標を設定する

エ：言語サンプルの意義を整理する：純音閾値だけを測る

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。言語全体を評価できない。

イ：この対応は不適切である。言語症状の区別ではない。

ウ：この対応は適切である。評価は診断だけでなく支援計画につなげる。

エ：この対応は不適切である。聴覚検査である。

総合解説：機能的な目標は日常生活・学習・参加と結びつける。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0023

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：基礎

問題

発達検査・鑑別の学習で発達評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：発達チェックリストの限界を整理する：チェックリストだけで診断を確定する
- イ：鑑別で聴力を確認する理由を説明できる：聴力正常なら全ての発達障害を否定できるから
- ウ：多言語児の標準検査を適切に解釈できる：家庭言語の情報を無視する
- エ：発達モニタリングとスクリーニングを区別する：モニタリングは日常的な経過観察、スクリーニングは妥当化された質問票などにより形式的な確認である

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は不適切である。不適切である。
- イ：この対応は不適切である。否定できない。
- ウ：この対応は不適切である。重要である。
- エ：この対応は適切である。CDCは両者を区別している。

総合解説：発達上の懸念があればスクリーニングや包括評価へ進む。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0024

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：標準

問題

「発達検査・鑑別」に関する知識を横断して確認する。発達チェックリストの限界を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：鑑別で聴力を確認する理由を説明できる：難聴が受容言語・表出言語の発達遅滞に似た所見を作ることがあるため
- イ：多言語児の標準検査を適切に解釈できる：得点だけで障害とせず、家庭言語・学習歴・動的評価・言語サンプルなどを統合する
- ウ：発達全般の評価が必要な場面を判断できる：言語評価に加えて全般的発達を多職種で評価する
- エ：発達チェックリストの限界を整理する：懸念があっても精査しない

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は正しい。聞こえの問題を除外・把握する必要がある。
- イ：この対応は正しい。規準集団と異なる言語背景では標準得点の解釈に注意が必要である。
- ウ：この対応は正しい。複数領域の遅れでは広い発達評価が必要である。
- エ：この対応が誤りである。次の評価につなげる。

総合解説：マイルストーンは会話のきっかけと早期発見に役立つ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0025

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：標準

問題

「発達検査・鑑別」の鑑別を確認する。次の対応のうち、誤っているものはどれか。

ア：多言語児の標準検査を適切に解釈できる：得点だけで障害とせず、家庭言語・学習歴・動的評価・言語サンプルなどを統合する

イ：発達全般の評価が必要な場面を判断できる：言語評価に加えて全般的発達を多職種で評価する

ウ：スクリーニング陽性後の対応を整理する：必要に応じて専門的な発達評価や早期支援へつなげる

エ：鑑別で聴力を確認する理由を説明できる：聴力検査でASDを診断できるから

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。規準集団と異なる言語背景では標準得点の解釈に注意が必要である。

イ：この対応は正しい。複数領域の遅れでは広い発達評価が必要である。

ウ：この対応は正しい。スクリーニングは精査・支援の必要性を判断する段階である。

エ：この対応が誤りである。診断できない。

総合解説：言語遅滞では感覚、発達、医学的背景を広く確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0026

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：応用

問題

発達検査・鑑別の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア：スクリーニング陽性後の対応を整理する：何もしない / 言語差と障害を区別する原則を整理する：標準語との差を全て誤りとする

イ：多言語児の標準検査を適切に解釈できる：得点だけで障害とせず、家庭言語・学習歴・動的評価・言語サンプルなどを統合する / 発達全般の評価が必要な場面を判断できる：言語評価に加えて全般的発達を多職種で評価する

ウ：診断名だけに依存しない評価を行える：診断名だけでなく個々の言語プロフィール、活動・参加、環境を評価して目標を決める / 発達モニタリングとスクリーニングを区別する：モニタリングは専門家だけが行う

エ：発達チェックリストの限界を整理する：懸念があっても精査しない / 鑑別で聴力を確認する理由を説明できる：難聴が受容言語・表出言語の発達遅滞に似た所見を作ることがあるため

答え・解説

正答：イ

ア：に誤りを含む。早期支援の機会を逃す。誤診につながる。

イ：とも正しい。規準集団と異なる言語背景では標準得点の解釈に注意が必要である。複数領域の遅れでは広い発達評価が必要である。

ウ：は正しいがに誤りがある。家族や保育者も参加できる。

エ：に誤りがある。次の評価につなげる。は正しい。

総合解説：ASHAは多言語評価で複数情報源と動的評価を推奨している。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0027

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：基礎

問題

発達検査・鑑別の学習で包括評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：発達全般の評価が必要な場面を判断できる：言語評価に加えて全般的発達を多職種で評価する
イ：スクリーニング陽性後の対応を整理する：何もしない
ウ：言語差と障害を区別する原則を整理する：標準語との差を全て誤りとする
エ：診断名だけに依存しない評価を行える：同じ訓練プログラムを同じ量だけ行う

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。複数領域の遅れでは広い発達評価が必要である。
イ：この対応は不適切である。早期支援の機会を逃す。
ウ：この対応は不適切である。誤診につながる。
エ：この対応は不適切である。個性性を無視している。

総合解説：発達性の問題は複数領域にまたがることもある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0028

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：標準

問題

「発達検査・鑑別」に関する知識を横断して確認する。スクリーニング陽性後の対応を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：言語差と障害を区別する原則を整理する：その言語・方言の規則と子どもの使用環境を確認する
イ：診断名だけに依存しない評価を行える：診断名だけでなく個々の言語プロフィール、活動・参加、環境を評価して目標を決める
ウ：スクリーニング陽性後の対応を整理する：次の検査を数年間待つ
エ：発達モニタリングとスクリーニングを区別する：モニタリングは日常的な経過観察、スクリーニングは妥当化された質問票などによるより形式的な確認である

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。文化的・言語的差異は障害そのものではない。
イ：この対応は正しい。診断名が同じでも強みと支援ニーズは異なる。
ウ：この対応が誤りである。懸念に応じて速やかに評価する。
エ：この対応は正しい。CDCは両者を区別している。

総合解説：早期発見から評価・介入へ連続させることが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0029

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：標準

問題

「発達検査・鑑別」の鑑別判断を確認する。次の対応のうち、誤っているものはどれか。ここでは「言語差・方言」との関連を手掛かりに整理する。

ア：診断名だけに依存しない評価を行える：診断名だけでなく個々の言語プロフィール、活動・参加、環境を評価して目標を決める
イ：発達モニタリングとスクリーニングを区別する：モニタリングは日常的な経過観察、スクリーニングは妥当化された質問票などによるより形式的な確認である
ウ：言語差と障害を区別する原則を整理する：家庭で使う言語を禁止する
エ：発達チェックリストの限界を整理する：発達モニタリングに用い、診断や正式なスクリーニングの代用にはしない

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。診断名が同じでも強みと支援ニーズは異なる。
イ：この対応は正しい。CDCは両者を区別している。
ウ：この対応が誤りである。評価・支援として不適切である。
エ：この対応は正しい。CDCは診断・スクリーニングツールとして使わないよう明記している。

総合解説：障害なら複数言語・文脈で困難がみられるかなどを検討する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0030

正常発達と評価 > 発達検査・鑑別 | 難易度：応用

問題

「発達検査・鑑別」について診断名だけに依存しない評価を行えるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 診断名だけに依存しない評価を行える：診断名だけでなく個々の言語プロフィール、活動・参加、環境を評価して目標を決める / 発達モニタリングとスクリーニングを区別する：モニタリングは日常的な経過観察、スクリーニングは妥当化された質問票などによるより形式的な確認である
イ： 発達チェックリストの限界を整理する：支援終了の根拠として単独使用する / 鑑別で聴力を確認する理由を説明できる：難聴は言語発達へ影響しないから
ウ： 多言語児の標準検査を適切に解釈できる：得点だけで障害とせず、家庭言語・学習歴・動的評価・言語サンプルなどを統合する / 発達全般の評価が必要な場面を判断できる：発音だけを詳しくみる
エ： スクリーニング陽性後の対応を整理する：次の検査を数年間待つ / 言語差と障害を区別する原則を整理する：その言語・方言の規則と子どもの使用環境を確認する

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 診断名が同じでも強みと支援ニーズは異なる。 CDCは両者を区別している。
イ： に誤りを含む。 推奨されない。 影響し得る。
ウ： は正しいが に誤りがある。 全体像を捉えられない。
エ： に誤りがある。 懸念に応じて速やかに評価する。 は正しい。

総合解説：包括評価は個別化支援の基盤となる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0031

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：基礎

問題

DLD / 言語発達症の学習で定義を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：DLDが持続性を持つことを整理する：3歳になると必ず自然消失する
イ：DLDの言語領域を整理する：歯列、咬合、唾液だけ
ウ：DLDと知的発達症を区別できる：両者は完全に同義である
エ：DLDの基本概念を整理する：明確な医学的原因がなく、学齢期以降にも持続する話し言葉の獲得・使用の困難

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。持続する例がある。
イ：この対応は不適切である。言語体系の分類ではない。
ウ：この対応は不適切である。異なる概念である。
エ：この対応は適切である。DLDは一次性の話し言葉障害を指す用語として使われる。

総合解説：DLDは音韻・形態・統語・意味・語用の一つ以上に影響し得る。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0032

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：標準

問題

「DLD / 言語発達症」に関する知識を横断して確認する。DLDが持続性を持つことを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：DLDの言語領域を整理する：音韻、形態、統語、意味、語用
イ：DLDと知的発達症を区別できる：DLDは知的機能全般の障害を前提とせず、言語の持続的困難が中心となる
ウ：DLD診断で認知参照を使わない理由を整理する：IQと言語得点の差だけでは支援必要性や言語障害の有無を適切に判断できないため
エ：DLDが持続性を持つことを整理する：成人期には一切影響しない

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。話し言葉の複数領域に困難が生じ得る。
イ：この対応は正しい。知的発達症では知的機能と適応行動の両方に有意な制約がある。
ウ：この対応は正しい。ASHAは認知参照をサービス適格性の基準に用いないとしている。
エ：この対応が誤りである。生涯にわたり影響し得る。

総合解説：表面的に改善しても学習要求が高まると困難が再び目立つことがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0033

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：基礎

問題

「DLD / 言語発達症」の症候を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：DLDと知的発達症を区別できる：両者は完全に同義である

イ：DLDの言語領域を整理する：音韻、形態、統語、意味、語用

ウ：DLD診断で認知参照を使わない理由を整理する：IQ検査は常に無意味だから

エ：DLDと読み書き困難の関連を整理する：学齢期には言語評価不要である

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。異なる概念である。

イ：この対応は適切である。話し言葉の複数領域に困難が生じ得る。

ウ：この対応は不適切である。IQ情報自体が無意味ということではない。

エ：この対応は不適切である。要求が高まり困難が顕在化することがある。

総合解説：個々の子どもで強み・弱みの組合せは異なる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0034

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：標準

問題

「DLD / 言語発達症」についてDLDと知的発達症を区別するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：DLD診断で認知参照を使わない理由を整理する：IQと言語得点の差だけでは支援必要性や言語障害の有無を適切に判断できないため

イ：DLDと知的発達症を区別できる：知的発達症では言語障害は起こらない

ウ：DLDと読み書き困難の関連を整理する：読み書きの困難が併存・後発することがある

エ：DLDで語彙の弱さが起こり得ることを知る：語彙獲得が遅く、語検索や意味知識が弱いことがある

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。ASHAは認知参照をサービス適格性の基準に用いないとしている。

イ：この対応が誤りである。併存し得る。

ウ：この対応は正しい。話し言葉の障害はリテラシー発達にも影響し得る。

エ：この対応は正しい。意味・語彙領域はDLDで影響を受け得る。

総合解説：認知・適応行動を含む全体発達を評価して鑑別する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0035

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：応用

問題

DLD / 言語発達症の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： DLDで語彙の弱さが起こり得ることを知る：語の理解は一切評価不要である / DLDで文法の弱さを整理する：語用だけが唯一の問題となる

イ： DLD診断で認知参照を使わない理由を整理する：IQと言語得点の差だけでは支援必要性や言語障害の有無を適切に判断できないため / DLDと読み書き困難の関連を整理する：読み書きの困難が併存・後発することがある

ウ： DLDと多言語使用を症例から区別できる：日本語得点だけでDLDとせず、家庭言語を含めた評価を行う / DLDと他の診断の併存を整理する：他の発達特性が一つでもあればDLDという語は絶対使えない

エ： DLDの早期兆候を整理する：一回の発話量だけで将来を確定する / DLDの評価で複数情報源を使う理由を整理する：異なる場面での言語能力と生活への影響を総合できるため

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 重要な評価領域である。 複数領域が影響し得る。

イ： とも正しい。 ASHAは認知参照をサービス適格性の基準に用いないとしている。 話し言葉の障害はリテラシー発達にも影響し得る。

ウ： は正しいが に誤りがある。 ASHAの説明と異なる。

エ： に誤りがある。 経過観察が必要である。 は正しい。

総合解説：支援判断は言語機能と生活・学習への影響を直接評価して行う。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0036

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：標準

問題

「DLD / 言語発達症」に関する知識を横断して確認する。DLDと読み書き困難の関連を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：DLDと読み書き困難の関連を整理する：必ず算数だけが障害される

イ：DLDで語彙の弱さが起こり得ることを知る：語彙獲得が遅く、語検索や意味知識が弱いことがある

ウ：DLDで文法の弱さを整理する：文法形態素の誤りや複雑な文の理解・産生の困難

エ：DLDと多言語使用を症例から区別できる：日本語得点だけでDLDとせず、家庭言語を含めた評価を行う

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。限定できない。

イ：この対応は正しい。意味・語彙領域はDLDで影響を受け得る。

ウ：この対応は正しい。形態・統語の弱さは代表的症候の一つである。

エ：この対応は正しい。言語経験不足による差と障害を区別する必要がある。

総合解説：音韻意識、語彙、文法、物語能力は読み書きにも関係する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0037

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：基礎

問題
「DLD / 言語発達症」の症候を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。ここでは「DLD・語彙」との関連を手掛かりに整理する。

- ア：DLDで文法の弱さを整理する：語用だけが唯一の問題となる
- イ：DLDと多言語使用を症例から区別できる：二言語使用自体をDLDと診断する
- ウ：DLDで語彙の弱さが起こり得ることを知る：語彙獲得が遅く、語検索や意味知識が弱いことがある
- エ：DLDと他の診断の併存を整理する：併存疾患があれば言語評価不要である

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は不適切である。複数領域が影響し得る。
- イ：この対応は不適切である。誤りである。
- ウ：この対応は適切である。意味・語彙領域はDLDで影響を受け得る。
- エ：この対応は不適切である。個別評価が必要である。

総合解説：語彙の量だけでなく意味関係や語の使用も評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0038

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：標準

問題
「DLD / 言語発達症」についてDLDで文法の弱さを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：DLDと多言語使用を症例から区別できる：日本語得点だけでDLDとせず、家庭言語を含めた評価を行う
- イ：DLDで文法の弱さを整理する：文法は常に完全に保たれる
- ウ：DLDと他の診断の併存を整理する：ADHDや発達性協調運動症などと併存する場合がある
- エ：DLDの早期兆候を整理する：語彙や語結合の遅れに加え、理解や身振りなど複数領域の弱さが続く

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。言語経験不足による差と障害を区別する必要がある。
- イ：この対応が誤りである。そうとは限らない。
- ウ：この対応は正しい。併存していても明確な因果関係がない場合DLD用語が使われることがある。
- エ：この対応は正しい。LLEからDLDへ移行するリスク評価では表出だけでなく理解等もみる。

総合解説：年齢や言語によって具体的な誤りパターンは異なる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0039

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：応用

問題

「DLD / 言語発達症」についてDLDと多言語使用を症例から区別できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： DLDの早期兆候を整理する：発達歴は不要である / DLDの評価で複数情報源を使う理由を整理する：得点を意図的に平均化するため

イ： DLDと多言語使用を症例から区別できる：日本語得点だけでDLDとせず、家庭言語を含めた評価を行う / DLDと他の診断の併存を整理する：ADHDや発達性協調運動症などと併存する場合がある

ウ： DLDの基本概念を整理する：明確な医学的原因がなく、学齢期以降にも持続する話し言葉の獲得・使用の困難 / DLDが持続性を持つことを整理する：必ず発音だけの問題に限られる

エ： DLDの言語領域を整理する：血圧、脈拍、体温だけ / DLDと知的発達症を区別できる：DLDは知的機能全般の障害を前提とせず、言語の持続的困難が中心となる

0040

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：標準

問題

「DLD / 言語発達症」に関する知識を横断して確認する。DLDと他の診断の併存を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：DLDの早期兆候を整理する：語彙や語結合の遅れに加え、理解や身振りなど複数領域の弱さが続く

イ：DLDの評価で複数情報源を使う理由を整理する：異なる場面での言語能力と生活への影響を総合できるため

ウ：DLDと他の診断の併存を整理する：DLDは必ず単独でのみ存在する

エ：DLDの基本概念を整理する：明確な医学的原因がなく、学齢期以降にも持続する話し言葉の獲得・使用の困難

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 重要である。 統計操作が目的ではない。

イ： とも正しい。 言語経験不足による差と障害を区別する必要がある。 併存していても明確な因果関係がない場合DLD用語が使われることがある。

ウ： は正しいが に誤りがある。 複数言語領域が関与する。

エ： に誤りがある。 言語症状ではない。 は正しい。

総合解説：多言語児では複数言語と学習可能性を含めて判断する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。LLEからDLDへ移行するリスク評価では表出だけでなく理解等もみる。

イ：この対応は正しい。一つの検査だけでは言語障害の全体像を捉えにくい。

ウ：この対応が誤りである。併存がある。

エ：この対応は正しい。DLDは一次性的の話し言葉障害を指す用語として使われる。

総合解説：診断名よりも個々の言語プロフィールと支援ニーズを明確にする。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0041

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：基礎

問題

「DLD / 言語発達症」の早期発見を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：DLDの評価で複数情報源を使う理由を整理する：得点を意図的に平均化するため
イ：DLDの基本概念を整理する：複数言語を使うこと自体
ウ：DLDの早期兆候を整理する：語彙や語結合の遅れに加え、理解や身振りなど複数領域の弱さが続く
エ：DLDが持続性を持つことを整理する：3歳になると必ず自然消失する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。統計操作が目的ではない。
イ：この対応は不適切である。多言語使用は障害ではない。
ウ：この対応は適切である。LLEからDLDへ移行するリスク評価では表出だけでなく理解等もみる。
エ：この対応は不適切である。持続する例がある。

総合解説：幼児期は確定診断より継続的モニタリングが重要なこともある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0042

発達性言語障害 > DLD / 言語発達症 | 難易度：標準

問題

「DLD / 言語発達症」についてDLDの評価で複数情報源を使う理由を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：DLDの基本概念を整理する：明確な医学的原因がなく、学齢期以降にも持続する話し言葉の獲得・使用の困難
イ：DLDの評価で複数情報源を使う理由を整理する：家族情報を無効化するため
ウ：DLDが持続性を持つことを整理する：幼児期だけでなく学齢期やその後まで言語・学習上の困難が持続することがある
エ：DLDの言語領域を整理する：音韻、形態、統語、意味、語用

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。DLDは一次性的話し言葉障害を指す用語として使われる。
イ：この対応が誤りである。家族情報も重要である。
ウ：この対応は正しい。症状の現れ方は年齢と要求水準で変化する。
エ：この対応は正しい。話し言葉の複数領域に困難が生じ得る。

総合解説：複数の収束する証拠を用いることで診断の妥当性を高める。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0043

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：基礎

問題

語彙・文法・語用の学習で語彙評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：語検索困難を整理する：視覚失認
イ：語彙理解と表出を区別する：聞いた語に対応する絵を選ぶ
ウ：文法形態素を整理する：口腔外科
エ：複雑文理解を評価できる：歯の本数だけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。対象自体の認識障害である。
イ：この対応は適切である。語の意味理解をみる課題である。
ウ：この対応は不適切である。言語体系ではない。
エ：この対応は不適切である。無関係である。

総合解説：語彙は理解と表出を分けて評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0044

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：標準

問題

「語彙・文法・語用」に関する知識を横断して確認する。語検索困難を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：語検索困難を整理する：半側空間無視
イ：文法形態素を整理する：形態・統語
ウ：複雑文理解を評価できる：語順、助詞、従属節など統語情報を使って役割関係を理解できるか
エ：語用と文法の不均衡を統合して評価できる：文法能力だけでなく語用・社会的コミュニケーションの弱さを評価する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。空間性注意障害である。
イ：この対応は正しい。文法形態素と文構造に関係する。
ウ：この対応は正しい。文理解は語彙だけでなく統語処理を必要とする。
エ：この対応は正しい。言語の形式が良好でも使用面に困難があることがある。

総合解説：DLDでは語の学習だけでなく検索速度や正確性にも弱さが出ることもある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0045

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：基礎

問題

「語彙・文法・語用」の文法を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：複雑文理解を評価できる：歯の本数だけ
イ：語用と文法の不均衡を統合して評価できる：聴力低下と断定する
ウ：語彙の深さを整理する：純音の周波数を比べる
エ：文法形態素を整理する：形態・統語

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。無関係である。
イ：この対応は不適切である。根拠がない。
ウ：この対応は不適切である。聴覚課題である。
エ：この対応は適切である。文法形態素と文構造に関係する。

総合解説：文法評価では形態素の使用と文の複雑性をみる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0046

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：標準

問題

「語彙・文法・語用」について複雑文理解を評価できるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：語用と文法の不均衡を統合して評価できる：文法能力だけでなく語用・社会的コミュニケーションの弱さを評価する
イ：語彙の深さを整理する：類義語・反義語・カテゴリーなど語同士の意味関係を説明させる
ウ：物語能力の評価を整理する：出来事の順序、因果関係、登場人物、文法・語彙の統合
エ：複雑文理解を評価できる：音量だけ

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。言語の形式が良好でも使用面に困難があることがある。
イ：この対応は正しい。語数だけでなく意味知識の質をみる。
ウ：この対応は正しい。物語は複数言語領域を統合する高次課題である。
エ：この対応が誤りである。文法理解を示さない。

総合解説：統語理解と表出は別々の課題でみることができる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0047

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：応用

問題

語彙・文法・語用の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 物語能力の評価を整理する：舌圧だけ / 語用評価で文化差を考慮できる：本人の目標を考慮しない
イ： 語用と文法の不均衡を統合して評価できる：文法能力だけでなく語用・社会的コミュニケーションの弱さを評価する / 語彙の深さを整理する：類義語・反義語・カテゴリーなど語同士の意味関係を説明させる
ウ： 言語領域間の相互作用を症例から判断できる：語彙と統語を別々に測るとともに、文章理解での統合も確認する / 語用支援の目標を整理する：語用とは無関係な単純筋力訓練だけを行う
エ： 語彙理解と表出を区別する：純音を聞いてボタンを押す / 語検索困難を整理する：語検索の困難

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 運動機能である。 機能的評価に反する。
イ： とも正しい。 言語の形式が良好でも使用面に困難があることがある。 語数だけでなく意味知識の質をみる。
ウ： は正しいが に誤りがある。 目的に合わない。
エ： に誤りがある。 聴力評価である。 は正しい。

総合解説：言語プロフィールでは領域間の不均衡も重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0048

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：標準

問題

「語彙・文法・語用」に関する知識を横断して確認する。語彙の深さを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：物語能力の評価を整理する：出来事の順序、因果関係、登場人物、文法・語彙の統合
イ：語彙の深さを整理する：知っている語の総数だけを数える
ウ：語用評価で文化差を考慮できる：家族・文化・コミュニティでの社会的規範を考慮する
エ：言語領域間の相互作用を症例から判断できる：語彙と統語を別々に測るとともに、文章理解での統合も確認する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。物語は複数言語領域を統合する高次課題である。
イ：この対応が誤りである。主に語彙量である。
ウ：この対応は正しい。社会コミュニケーションの規範は文化によって異なる。
エ：この対応は正しい。複数領域の相互作用が学習課題に影響する。

総合解説：DLDでは語彙量と意味ネットワークの双方に弱さが出ることもある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0049

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：基礎

問題

「語彙・文法・語用」の談話を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：語用評価で文化差を考慮できる：本人の目標を考慮しない
イ：言語領域間の相互作用を症例から判断できる：文章理解だけを行い下位機能をみない
ウ：物語能力の評価を整理する：出来事の順序、因果関係、登場人物、文法・語彙の統合
エ：語用支援の目標を整理する：会話相手を一切置かない

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。機能的評価に反する。
イ：この対応は不適切である。弱さの所在が分からない。
ウ：この対応は適切である。物語は複数言語領域を統合する高次課題である。
エ：この対応は不適切である。実践機会が乏しい。

総合解説：学齢期では物語能力が学習や社会的コミュニケーションにも関わる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0050

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：標準

問題

「語彙・文法・語用」について語用評価で文化差を考慮できるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：言語領域間の相互作用を症例から判断できる：語彙と統語を別々に測るとともに、文章理解での統合も確認する
イ：語用支援の目標を整理する：相手に応じた話題開始・維持・修復を実際の会話で練習する
ウ：語用評価で文化差を考慮できる：非言語行動は評価しない
エ：語彙理解と表出を区別する：聞いた語に対応する絵を選ぶ

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。複数領域の相互作用が学習課題に影響する。
イ：この対応は正しい。語用技能は機能的な相互作用場面で練習する。
ウ：この対応が誤りである。重要な要素である。
エ：この対応は正しい。語の意味理解をみる課題である。

総合解説：差異と障害を区別する文化的に応答的な評価が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0051

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：応用

問題

「語彙・文法・語用」について言語領域間の相互作用を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 語彙理解と表出を区別する：絵を見て名称を答える / 語検索困難を整理する：半側空間無視
イ： 文法形態素を整理する：形態・統語 / 複雑文理解を評価できる：歯の本数だけ
ウ： 言語領域間の相互作用を症例から判断できる：語彙と統語を別々に測るとともに、文章理解での統合も確認する / 語用支援の目標を整理する：相手に応じた話題開始・維持・修復を実際の会話で練習する
エ： 語用と文法の不均衡を統合して評価できる：聴力低下と断定する / 語彙の深さを整理する：類義語・反義語・カテゴリーなど語同士の意味関係を説明させる

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 主に表出語彙をみる。 空間性注意障害である。
イ： は正しいが に誤りがある。 無関係である。
ウ： とも正しい。 複数領域の相互作用が学習課題に影響する。 語用技能は機能的な相互作用場で練習する。
エ： に誤りがある。 根拠がない。 は正しい。

総合解説：DLD評価では領域別と統合課題の両方が役立つ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0052

発達性言語障害 > 語彙・文法・語用 | 難易度：標準

問題

「語彙・文法・語用」に関する知識を横断して確認する。語用支援の目標を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：語彙理解と表出を区別する：聞いた語に対応する絵を選ぶ
イ：語用支援の目標を整理する：正解の文法だけを暗記させる
ウ：語検索困難を整理する：語検索の困難
エ：文法形態素を整理する：形態・統語

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。語の意味理解をみる課題である。
イ：この対応が誤りである。語用の核心ではない。
ウ：この対応は正しい。語彙表出のアクセスが弱い場合にみられる。
エ：この対応は正しい。文法形態素と文構造に関係する。

総合解説：日常場面への汎化を意識して支援する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0053

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：基礎

問題

「訓練・保護者支援」の支援原則を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：自然な会話場面を介入に使う意義を整理する：訓練室の単語カードだけで終える
イ：介入目標の個別化を整理する：評価で確認した強み・弱みと家庭・学校での困難、本人・保護者の優先事項を統合する
ウ：保護者支援の基本を整理する：会話を減らす
エ：学校との連携を整理する：診断名だけで具体策は共有しない

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。汎化が不十分になり得る。
イ：この対応は適切である。目標は個別化し機能的課題へ結びつける。
ウ：この対応は不適切である。学習機会が減る。
エ：この対応は不適切である。支援に結びつかない。

総合解説：介入は年齢・発達・環境・本人の目標に合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0054

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：標準

問題

「訓練・保護者支援」について自然な会話場面を介入に使う意義を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：保護者支援の基本を整理する：子どもの発話を待ち、意図を受け止め、少し拡張したことばで返す
イ：学校との連携を整理する：指示理解、語彙・文法、読み書きへの影響と具体的な配慮方法
ウ：介入効果を総合的に判定できる：生活上の機能改善も重要な介入効果として捉える
エ：自然な会話場面を介入に使う意義を整理する：誤りだけを強く指摘する

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。応答的なやり取りは言語学習機会を増やす。
イ：この対応は正しい。教室の言語要求へ支援をつなげる必要がある。
ウ：この対応は正しい。効果は標準得点だけでなく活動・参加で評価する。
エ：この対応が誤りである。コミュニケーション意欲を損なうことがある。

総合解説：構造化課題と自然場面を組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0055

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：基礎

問題

訓練・保護者支援の学習で家族支援を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：保護者支援の基本を整理する：子どもの発話を待ち、意図を受け止め、少し拡張したことばで返す
イ：学校との連携を整理する：診断名だけで具体策は共有しない
ウ：介入効果を総合的に判定できる：友人関係は言語支援と無関係とする
エ：保護者の負担に配慮した支援を行える：毎日長時間の訓練を一律に義務づける

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。応答的なやり取りは言語学習機会を増やす。
イ：この対応は不適切である。支援に結びつかない。
ウ：この対応は不適切である。社会参加に係る。
エ：この対応は不適切である。負担と継続性を無視する。

総合解説：保護者は訓練者の代わりではなく、日常の自然な相互作用を支えるパートナーである。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0056

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：標準

問題

「訓練・保護者支援」に関する知識を横断して確認する。学校との連携を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：学校との連携を整理する：家庭の情報だけで学校場面を見ない
イ：介入効果を総合的に判定できる：生活上の機能改善も重要な介入効果として捉える
ウ：保護者の負担に配慮した支援を行える：家庭の生活リズムや負担を確認し、実行可能な短い活動を一緒に決める
エ：支援の再評価を整理する：発達や学校要求の変化に応じて目標と方法を修正するため

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。学校での観察も重要である。
イ：この対応は正しい。効果は標準得点だけでなく活動・参加で評価する。
ウ：この対応は正しい。家族の状況に合う支援ほど継続しやすい。
エ：この対応は正しい。言語障害の現れ方は成長とともに変化し得る。

総合解説：短く明確な指示、視覚支援、事前語彙学習などを個別に検討する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0057

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：応用

問題
「訓練・保護者支援」について介入効果を総合的に判定できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： 支援の再評価を整理する：学齢期には評価不要だから / 介入方法を症例から選べる：知らない語を説明せず多用する
イ： 介入目標の個別化を整理する：評価で確認した強み・弱みと家庭・学校での困難、本人・保護者の優先事項を統合する / 自然な会話場面を介入に使う意義を整理する：誤りだけを強く指摘する
ウ： 介入効果を総合的に判定できる：生活上の機能改善も重要な介入効果として捉える / 保護者の負担に配慮した支援を行える：家庭の生活リズムや負担を確認し、実行可能な短い活動と一緒に決める
エ： 保護者支援の基本を整理する：誤りのたびに叱る / 学校との連携を整理する：指示理解、語彙・文法、読み書きへの影響と具体的な配慮方法

答え・解説

正答：ウ

- ア： に誤りを含む。 継続的モニタリングが重要である。 語彙支援にならない。
イ： は正しいが に誤りがある。 コミュニケーション意欲を損なうことがある。
ウ： とともに正しい。 効果は標準得点だけでなく活動・参加で評価する。 家族の状況に合う支援ほど継続しやすい。
エ： に誤りがある。 相互作用を損なう。 は正しい。

総合解説：支援効果は複数のアウトカムで評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0058

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：標準

問題
「訓練・保護者支援」について保護者の負担に配慮した支援を行えるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：支援の再評価を整理する：発達や学校要求の変化に応じて目標と方法を修正するため
イ：介入方法を症例から選べる：重要語を事前に教え、指示を短く区切り、視覚支援と反復を用いる
ウ：保護者の負担に配慮した支援を行える：家庭の目標を聞かない
エ：介入目標の個別化を整理する：評価で確認した強み・弱みと家庭・学校での困難、本人・保護者の優先事項を統合する

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は正しい。言語障害の現れ方は成長とともに変化し得る。
イ：この対応は正しい。語彙と理解負荷の両方に配慮した支援である。
ウ：この対応が誤りである。協働が必要である。
エ：この対応は正しい。目標は個別化し機能的課題へ結びつける。

総合解説：家庭支援は現実的で楽しく、日常に埋め込める形が望ましい。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0059

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：標準

問題

訓練・保護者支援の学習で経過観察を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：支援の再評価を整理する：一度決めた目標は変更してはいけないから

イ：介入方法を症例から選べる：重要語を事前に教え、指示を短く区切り、視覚支援と反復を用いる

ウ：介入目標の個別化を整理する：評価で確認した強み・弱みと家庭・学校での困難、本人・保護者の優先事項を統合する

エ：自然な会話場面を介入に使う意義を整理する：遊びや会話、教室活動の中で目標表現を繰り返す使う

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。必要に応じて変更する。

イ：この対応は正しい。語彙と理解負荷の両方に配慮した支援である。

ウ：この対応は正しい。目標は個別化し機能的課題へ結びつける。

エ：この対応は正しい。機能的文脈での練習は生活への汎化を促す。

総合解説：支援終了後も学習要求増加時に困難が再出現することがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0060

発達性言語障害 > 訓練・保護者支援 | 難易度：応用

問題

「訓練・保護者支援」について介入方法を症例から選べるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア：自然な会話場面を介入に使う意義を整理する：家族には目標を知らせない / 保護者支援の基本を整理する：常に答えを先回りして言う

イ：学校との連携を整理する：指示理解、語彙・文法、読み書きへの影響と具体的な配慮方法 / 介入効果を総合的に判定できる：学校情報は不要とする

ウ：介入方法を症例から選べる：重要語を事前に教え、指示を短く区切り、視覚支援と反復を用いる / 介入目標の個別化を整理する：評価で確認した強み・弱みと家庭・学校での困難、本人・保護者の優先事項を統合する

エ：保護者の負担に配慮した支援を行える：家庭の目標を聞かない / 支援の再評価を整理する：発達や学校要求の変化に応じて目標と方法を修正するため

答え・解説

正答：ウ

ア：に誤りを含む。日常支援につながらない。子どもの発信機会が減る。

イ：は正しいがに誤りがある。重要なアウトカムである。

ウ：とも正しい。語彙と理解負荷の両方に配慮した支援である。目標は個別化し機能的課題へ結びつける。

エ：に誤りがある。協働が必要である。は正しい。

総合解説：個々の言語プロフィールに合わせて環境調整と直接介入を組み合わせる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0061

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：基礎

問題

「ASDの特性・評価」のASD基礎を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：共同注意の弱さを整理する：文法能力と完全に同じだから
イ：ASD評価が多職種で行われることを整理する：家族情報を聞かない
ウ：ASDのコミュニケーション特性を整理する：共同注意、社会的相互性、身振り、語用、会話など
エ：ASDの言語プロフィールの多様性を整理する：文法が良ければ社会コミュニケーションも必ず良好である

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。異なる能力である。
イ：この対応は不適切である。発達歴に重要である。
ウ：この対応は適切である。ASDでは社会的コミュニケーションを多面的に評価する。
エ：この対応は不適切である。領域間の不均衡があり得る。

総合解説：ASHAは視線、共同注意、感情共有、会話、身振り等を挙げる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0062

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：標準

問題

「ASDの特性・評価」について共同注意の弱さを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：ASD評価が多職種で行われることを整理する：発達・医学・心理・言語コミュニケーション・聴覚などを多職種で評価する
イ：ASDの言語プロフィールの多様性を整理する：発話のない人から年齢相応以上の語彙を持つ人まで幅があり、語用面の特徴も多様である
ウ：ASDと語用評価を統合できる：語用・社会的コミュニケーション評価
エ：共同注意の弱さを整理する：運動発達だけを示すから

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。ASD診断と支援計画には複数領域の情報が必要である。
イ：この対応は正しい。ASDのコミュニケーションプロフィールは個人差が大きい。
ウ：この対応は正しい。形式的言語が良好でも社会的使用に困難があることがある。
エ：この対応が誤りである。社会コミュニケーションに関係する。

総合解説：開始する共同注意と応答する共同注意の両方をみることがある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0063

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：基礎

問題

ASDの特性・評価の学習で包括評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：ASDの言語プロフィールの多様性を整理する：文法が良ければ社会コミュニケーションも必ず良好である
- イ：ASDと語用評価を統合できる：歯科検査だけを行う
- ウ：反復的な言語行動を整理する：必ず失語症になる
- エ：ASD評価が多職種で行われることを整理する：発達・医学・心理・言語コミュニケーション・聴覚などを多職種で評価する

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は不適切である。領域間の不均衡があり得る。
- イ：この対応は不適切である。中心課題ではない。
- ウ：この対応は不適切である。後天性言語障害とは異なる。
- エ：この対応は適切である。ASD診断と支援計画には複数領域の情報が必要である。

総合解説：SLPはコミュニケーションの特徴と支援ニーズを評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0064

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：標準

問題

「ASDの特性・評価」に関する知識を横断して確認する。ASDの言語プロフィールの多様性を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：ASDと語用評価を統合できる：語用・社会的コミュニケーション評価
- イ：ASDの言語プロフィールの多様性を整理する：全員が発話不能である
- ウ：反復的な言語行動を整理する：エコラリアや定型的な言い回し
- エ：非言語コミュニケーションを整理する：視線、表情、身振り、身体の向き

答え・解説

正答：イ

- ア：この対応は正しい。形式的言語が良好でも社会的使用に困難があることがある。
- イ：この対応が誤りである。誤りである。
- ウ：この対応は正しい。反復的・定型的言語がみられる場合がある。
- エ：この対応は正しい。音声言語以外の社会的シグナルも重要である。

総合解説：支援は診断名ではなく個別プロフィールに基づく。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0065

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：応用

問題

ASDの特性・評価の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： ASDと語用評価を統合できる：語用・社会的コミュニケーション評価 / 反復的な言語行動を整理する：エコラリアや定型的な言い回し

イ： 非言語コミュニケーションを整理する：純音閾値だけ / ASD評価でAACを検討できる：AACは成人だけに使う

ウ： ASDの文化的評価を症例から考えられる：視線行動だけで判断せず、文化規範と他の社会コミュニケーション指標を総合する / ASD支援で本人の目標を尊重できる：社会規範への完全同化だけを目的とする

エ： ASDのコミュニケーション特性を整理する：筋力だけ / 共同注意の弱さを整理する：他者と対象への注意を共有する力がコミュニケーション発達に重要だから

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 形式的言語が良好でも社会的使用に困難があることがある。 反復的・定型的言語がみられる場合がある。

イ： に誤りを含む。 聴覚測定値である。 小児にも用いる。

ウ： は正しいが に誤りがある。 機能的な参加を重視する。

エ： に誤りがある。 中心領域ではない。 は正しい。

総合解説：自然会話、遊び、相手との相互作用を観察する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0066

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：標準

問題

「ASDの特性・評価」について反復的な言語行動を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：非言語コミュニケーションを整理する：視線、表情、身振り、身体の向き

イ：ASD評価でAACを検討できる：発話の有無だけでなく、AACを含む機能的コミュニケーション手段を評価する

ウ：反復的な言語行動を整理する：必ず聴力が低下する

エ：ASDの文化的評価を症例から考えられる：視線行動だけで判断せず、文化規範と他の社会コミュニケーション指標を総合する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。音声言語以外の社会的シグナルも重要である。

イ：この対応は正しい。ASHAは必要に応じAAC評価を包括評価へ含める。

ウ：この対応が誤りである。必須ではない。

エ：この対応は正しい。社会的行動の規範は文化で異なる。

総合解説：エコラリアも文脈によってコミュニケーション機能を持つことがあるため機能を評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0067

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：基礎

問題

ASDの特性・評価の学習でASD評価を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：非言語コミュニケーションを整理する：視線、表情、身振り、身体の向き
イ：ASD評価でAACを検討できる：AACは成人だけに使う
ウ：ASDの文化的評価を症例から考えられる：語用評価を行わない
エ：ASD支援で本人の目標を尊重できる：全員に同じ会話様式を強制する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。音声言語以外の社会的シグナルも重要である。
イ：この対応は不適切である。小児にも用いる。
ウ：この対応は不適切である。必要である。
エ：この対応は不適切である。個人差を無視する。

総合解説：社会的コミュニケーションは言語・非言語情報の統合で成立する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0068

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：標準

問題

「ASDの特性・評価」に関する知識を横断して確認する。ASD評価でAACを検討できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：ASD評価でAACを検討できる：話せないのでコミュニケーション能力はゼロとする
イ：ASDの文化的評価を症例から考えられる：視線行動だけで判断せず、文化規範と他の社会コミュニケーション指標を総合する
ウ：ASD支援で本人の目標を尊重できる：本人・家族の価値観と目標を確認し、実生活で必要なコミュニケーションを支援する
エ：ASDのコミュニケーション特性を整理する：共同注意、社会的相互性、身振り、語用、会話など

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。身振りやAACなど他手段がある。
イ：この対応は正しい。社会的行動の規範は文化で異なる。
ウ：この対応は正しい。ASHAは個人の価値・目標に沿った支援を重視している。
エ：この対応は正しい。ASDでは社会的コミュニケーションを多面的に評価する。

総合解説：コミュニケーション手段は音声に限定しない。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0069

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：応用

問題

「ASDの特性・評価」についてASDの文化的評価を症例から考えられるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： ASDのコミュニケーション特性を整理する：純音閾値だけ / 共同注意の弱さを整理する：運動発達だけを示すから

イ： ASD評価が多職種で行われることを整理する：発達・医学・心理・言語コミュニケーション・聴覚などを多職種で評価する / ASDの言語プロフィールの多様性を整理する：文法が良ければ社会コミュニケーションも必ず良好である

ウ： ASDと語用評価を統合できる：歯科検査だけを行う / 反復的な言語行動を整理する：エコラリアや定型的な言い回し

エ： ASDの文化的評価を症例から考えられる：視線行動だけで判断せず、文化規範と他の社会コミュニケーション指標を総合する / ASD支援で本人の目標を尊重できる：本人・家族の価値観と目標を確認し、実生活で必要なコミュニケーションを支援する

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 一部の鑑別には必要だがASD評価全体ではない。 社会コミュニケーションに関係する。

イ： は正しいが に誤りがある。 領域間の不均衡があり得る。

ウ： に誤りがある。 中心課題ではない。 は正しい。

エ： とも正しい。 社会的行動の規範は文化で異なる。 ASHAは個人の価値・目標に沿った支援を重視している。

総合解説：文化的差異を障害と誤認しない評価が必要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0070

ASD・知的発達症 > ASDの特性・評価 | 難易度：標準

問題

「ASDの特性・評価」についてASD支援で本人の目標を尊重できるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：ASDのコミュニケーション特性を整理する：共同注意、社会的相互性、身振り、語用、会話など

イ：共同注意の弱さを整理する：他者と対象への注意を共有する力がコミュニケーション発達に重要だから

ウ：ASD支援で本人の目標を尊重できる：神経多様性を否定する

エ：ASD評価が多職種で行われることを整理する：発達・医学・心理・言語コミュニケーション・聴覚などを多職種で評価する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。ASDでは社会的コミュニケーションを多面的に評価する。

イ：この対応は正しい。共同注意は言語・社会性の基盤である。

ウ：この対応が誤りである。本人のアイデンティティを尊重する必要がある。

エ：この対応は正しい。ASD診断と支援計画には複数領域の情報が必要である。

総合解説：支援は機能性、自己決定、参加を中心に考える。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0071

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：基礎

問題

知的発達症の学習で定義を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

- ア：適応行動を整理する：発声の基本周波数だけ
- イ：知的発達症の発症時期を整理する：脳卒中後だけに生じる
- ウ：コミュニケーション評価を包括的に行える：生活場面を見ない
- エ：知的発達症の基本概念を整理する：知的機能の制約と適応行動の制約

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は不適切である。音響指標である。
- イ：この対応は不適切である。後天性認知障害である。
- ウ：この対応は不適切である。機能的コミュニケーションが重要である。
- エ：この対応は適切である。現在の定義はIQだけでなく適応行動を重視する。

総合解説：適応行動には概念的・社会的・実用的技能が含まれる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0072

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：標準

問題

「知的発達症」に関する知識を横断して確認する。適応行動を理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：適応行動を整理する：MRI所見だけ
- イ：知的発達症の発症時期を整理する：発達期に生じる
- ウ：コミュニケーション評価を包括的に行える：身振り・発声・言語・社会的相互作用・読み書き・AACなど能力に応じ幅広く評価する
- エ：IQだけで支援量を決めない理由を整理する：適応行動と各生活場面で必要な支援量を個別に評価する

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。生活機能ではない。
- イ：この対応は正しい。成人後の脳損傷による認知低下とは区別される。
- ウ：この対応は正しい。象徴的・非象徴的コミュニケーションの両方を評価する。
- エ：この対応は正しい。現在の定義は支援ニーズと適応機能を重視する。

総合解説：支援ニーズの判断では実生活での適応機能が重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0073

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：基礎

問題

「知的発達症」の定義を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：コミュニケーション評価を包括的に行える：生活場面を見ない
イ：知的発達症の発症時期を整理する：発達期に生じる
ウ：IQだけで支援量を決めない理由を整理する：IQが同じなので同じ支援にする
エ：知的発達症で聴覚確認が重要なことを整理する：知的発達症では難聴が絶対に起こらないから

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。機能的コミュニケーションが重要である。
イ：この対応は適切である。成人後の脳損傷による認知低下とは区別される。
ウ：この対応は不適切である。個性性を無視する。
エ：この対応は不適切である。誤りである。

総合解説：ASHAはAAIDDの定義に基づき発達期発症を挙げている。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0074

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：標準

問題

「知的発達症」についてコミュニケーション評価を包括的に行えるために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：IQだけで支援量を決めない理由を整理する：適応行動と各生活場面で必要な支援量を個別に評価する
イ：知的発達症で聴覚確認が重要なことを整理する：聴力低下がコミュニケーションをさらに妨げる可能性があるため
ウ：コミュニケーション評価を包括的に行える：語彙検査1つだけで完結する
エ：非象徴的コミュニケーションを整理する：視線、身振り、発声、行動による要求・拒否など

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。現在の定義は支援ニーズと適応機能を重視する。
イ：この対応は正しい。IDでは聞こえの問題を見逃さないことが重要である。
ウ：この対応が誤りである。不十分である。
エ：この対応は正しい。ことば以外の伝達手段にも機能がある。

総合解説：評価は発達水準と本人の参加場面に合わせて調整する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0075

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：応用

問題
「知的発達症」についてIQだけで支援量を決めない理由を理解するため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： 非象徴的コミュニケーションを整理する：聴力図だけを評価する / 問題行動の機能を考慮できる：全て無視する
- イ： 知的発達症の学習可能性を症例から評価できる：現在得点だけでなく学習可能性を支援計画に活かす / 支援を生活参加へ結びつける：本人の選択機会を減らす
- ウ： 知的発達症の基本概念を整理する：聴力と視力だけ / 適応行動を整理する：日常生活、社会的判断、コミュニケーション、実用的技能など
- エ： IQだけで支援量を決めない理由を整理する：適応行動と各生活場面で必要な支援量を個別に評価する / 知的発達症で聴覚確認が重要なことを整理する：聴力低下がコミュニケーションをさらに妨げる可能性があるため

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。 機能的コミュニケーションではない。 安全や要求の把握が必要である。
- イ： は正しいが に誤りがある。 自己決定に反する。
- ウ： に誤りがある。 定義の中心ではない。 は正しい。
- エ： とも正しい。 現在の定義は支援ニーズと適応機能を重視する。 IDでは聞こえの問題を見逃さないことが重要である。

総合解説：知的発達症では制約だけでなく強みと必要な支援を明確にする。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0076

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：標準

問題
「知的発達症」に関する知識を横断して確認する。知的発達症で聴覚確認が重要なことを理解するうえで誤っている対応はどれか。

- ア：非象徴的コミュニケーションを整理する：視線、身振り、発声、行動による要求・拒否など
- イ：問題行動の機能を考慮できる：行動が要求・拒否などコミュニケーション機能を持つ可能性を評価する
- ウ：知的発達症の学習可能性を症例から評価できる：現在得点だけでなく学習可能性を支援計画に活かす
- エ：知的発達症で聴覚確認が重要なことを整理する：聴力で知的機能が決まるから

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は正しい。ことば以外の伝達手段にも機能がある。
- イ：この対応は正しい。問題行動が未熟なコミュニケーション手段として機能することがある。
- ウ：この対応は正しい。動的評価はどの程度の支援で学べるかを示す。
- エ：この対応が誤りである。別の機能である。

総合解説：ASHAは包括評価に聴覚スクリーニングを含める。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0077

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：基礎

問題

「知的発達症」のコミュニケーションを確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：問題行動の機能を考慮できる：全て無視する
イ：知的発達症の学習可能性を症例から評価できる：支援量を増減する情報にならない
ウ：非象徴的コミュニケーションを整理する：視線、身振り、発声、行動による要求・拒否など
エ：支援を生活参加へ結びつける：検査課題だけを完璧にする

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。安全や要求の把握が必要である。
イ：この対応は不適切である。重要な情報である。
ウ：この対応は適切である。ことば以外の伝達手段にも機能がある。
エ：この対応は不適切である。生活への汎化が必要である。

総合解説：行動の機能を理解するとAAC導入にもつながる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0078

ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：標準

問題

「知的発達症」について問題行動の機能を考慮できるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：問題行動の機能を考慮できる：罰だけを強める
イ：知的発達症の学習可能性を症例から評価できる：現在得点だけでなく学習可能性を支援計画に活かす
ウ：支援を生活参加へ結びつける：家庭・学校・地域で自分の希望を伝え、選択や参加が増えること
エ：知的発達症の基本概念を整理する：知的機能の制約と適応行動の制約

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。代替コミュニケーション支援が必要である。
イ：この対応は正しい。動的評価はどの程度の支援で学べるかを示す。
ウ：この対応は正しい。機能的コミュニケーションと自己決定を重視する。
エ：この対応は正しい。現在の定義はIQだけでなく適応行動を重視する。

総合解説：機能を把握し、より効果的な代替コミュニケーションを教える。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0079ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：応用

問題

「知的発達症」の動的評価について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 知的発達症の基本概念を整理する：語彙と発音だけ / 適応行動を整理する：MRI所見だけ
イ： 知的発達症の発症時期を整理する：発達期に生じる / コミュニケーション評価を包括的に行える：生活場面を見ない
ウ： IQだけで支援量を決めない理由を整理する：IQが同じなので同じ支援にする / 知的発達症で聴覚確認が重要なことを整理する：聴力低下がコミュニケーションをさらに妨げる可能性があるため
エ： 知的発達症の学習可能性を症例から評価できる：現在得点だけでなく学習可能性を支援計画に活かす / 支援を生活参加へ結びつける：家庭・学校・地域で自分の希望を伝え、選択や参加が増えること

答え・解説正答：エ

ア： に誤りを含む。一部の機能にすぎない。生活機能ではない。
イ： は正しいが に誤りがある。機能的コミュニケーションが重要である。
ウ： に誤りがある。個別性を無視する。は正しい。
エ： とも正しい。動的評価はどの程度の支援で学べるかを示す。機能的コミュニケーションと自己決定を重視する。

総合解説：知的発達症の評価では強み・学習反応・補償手段もみる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0080ASD・知的発達症 > 知的発達症 | 難易度：標準

問題

「知的発達症」に関する知識を横断して確認する。支援を生活参加へ結びつけるうえで誤っている対応はどれか。

ア：支援を生活参加へ結びつける：会話相手を限定する
イ：知的発達症の基本概念を整理する：知的機能の制約と適応行動の制約
ウ：適応行動を整理する：日常生活、社会的判断、コミュニケーション、実用的技能など
エ：知的発達症の発症時期を整理する：発達期に生じる

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。参加を狭める。
イ：この対応は正しい。現在の定義はIQだけでなく適応行動を重視する。
ウ：この対応は正しい。生活場面で必要な概念的・社会的・実用的能力をみる。
エ：この対応は正しい。成人後の脳損傷による認知低下とは区別される。

総合解説：支援は生活場面での成功と必要な支援量の低減を目指す。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0081

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：基礎

問題

「コミュニケーション支援・AAC」のAAC支援を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：AAC評価の目的を整理する：一度選んだシステムを生涯変更しない
イ：AACに前提能力を要求しすぎないことを整理する：文字が読めるまで待つ
ウ：AACと発話の関係を整理する：AACを使うと発話を必ず失う
エ：ASD児へのAAC導入の基本を整理する：発話を補助・代替するために身振り、絵、文字、機器など多様な手段を用いること

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。継続評価が必要である。
イ：この対応は不適切である。必須条件ではない。
ウ：この対応は不適切である。そのように一律に断定できない。
エ：この対応は適切である。AACは音声以外を含む幅広いコミュニケーション手段である。

総合解説：AACには無補助型と補助具を使う方法の両方がある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0082

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション支援・AAC」についてAAC評価の目的を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：AACに前提能力を要求しすぎないことを整理する：コミュニケーション需要があるなら、能力を理由に一律に導入を遅らせず評価する
イ：AAC評価の目的を整理する：発話能力を無視する
ウ：AACと発話の関係を整理する：AACは必要なコミュニケーションを保障する手段で、発話が可能なら併用できる
エ：AACシステム選択を症例から判断できる：視線入力など身体能力に合うアクセス方法を試し、精度と疲労を評価する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。AACは早期から機能的コミュニケーションを支え得る。
イ：この対応が誤りである。残存発話も含めて評価する。
ウ：この対応は正しい。AACは発話の代わりだけでなく補助としても使う。
エ：この対応は正しい。AACは運動・感覚能力に合わせてアクセス方法を選ぶ。

総合解説：アクセス方法、語彙、場面、相手、学習支援などを含めて考える。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0083

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：基礎

問題

コミュニケーション支援・AACの学習でAAC導入を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：AACに前提能力を要求しすぎないことを整理する：コミュニケーション需要があるなら、能力を理由に一律に導入を遅らせず評価する
イ：AACと発話の関係を整理する：AACを使うと発話を必ず失う
ウ：AACシステム選択を症例から判断できる：指タッチだけに限定する
エ：コミュニケーションパートナー支援を整理する：返答を待たず常に代弁する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。AACは早期から機能的コミュニケーションを支え得る。
イ：この対応は不適切である。そのように一律に断定できない。
ウ：この対応は不適切である。運動能力に合わない可能性がある。
エ：この対応は不適切である。本人の表出機会が減る。

総合解説：本人に合うシンボルやアクセス方法を選ぶ。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0084

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション支援・AAC」に関する知識を横断して確認する。AACと発話の関係を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：AACと発話の関係を整理する：AAC使用中は声を出してはいけない
イ：AACシステム選択を症例から判断できる：視線入力など身体能力に合うアクセス方法を試し、精度と疲労を評価する
ウ：コミュニケーションパートナー支援を整理する：AACで答える時間を待ち、本人の表現を尊重し、日常場面で使用機会を作る
エ：語彙選択の原則を整理する：要求だけでなく、拒否、質問、感情、コメント、社会的やり取りに使える語を含める

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。併用可能である。
イ：この対応は正しい。AACは運動・感覚能力に合わせてアクセス方法を選ぶ。
ウ：この対応は正しい。パートナーの待ち方・モデリング・応答性が使用成功に影響する。
エ：この対応は正しい。コミュニケーション機能を広く支える語彙が必要である。

総合解説：手段の一つに限定せず、総合的コミュニケーションを支援する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0085

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：応用

問題
「コミュニケーション支援・AAC」のAAC症例について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

- ア： 語彙選択の原則を整理する：選択肢を全て家族が決め本人の好みを無視する / AACの継続評価を整理する：語彙追加は不要だから
- イ： ASD児のAAC支援を統合できる：音声・身振り・AACを組み合わせ、要求だけでなく共有・拒否・コメントなど機能を広げる / AACの最終目標を整理する：機器操作速度だけ
- ウ： ASD児へのAAC導入の基本を整理する：成人だけの機器訓練 / AAC評価の目的を整理する：本人の能力・環境・目的に合い、機能的コミュニケーションを最大化するシステムを選ぶこと
- エ： AACシステム選択を症例から判断できる：視線入力など身体能力に合うアクセス方法を試し、精度と疲労を評価する / コミュニケーションパートナー支援を整理する：AACで答える時間を待ち、本人の表現を尊重し、日常場面で使用機会を作る

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。 本人中心に反する。 必要に応じ更新する。
- イ： は正しいが に誤りがある。 重要だが目的の一部である。
- ウ： に誤りがある。 年齢を問わず使われる。 は正しい。
- エ： とも正しい。 AACは運動・感覚能力に合わせてアクセス方法を選ぶ。 パートナーの待ち方・モデリング・応答性が使用成功に影響する。

総合解説：最適なアクセスは試用と継続評価で決める。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0086

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：標準

問題
「コミュニケーション支援・AAC」についてコミュニケーションパートナー支援を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：語彙選択の原則を整理する：要求だけでなく、拒否、質問、感情、コメント、社会的やり取りに使える語を含める
- イ：AACの継続評価を整理する：本人の成長、環境、運動・感覚能力、コミュニケーション需要が変化するため
- ウ：コミュニケーションパートナー支援を整理する：AACを訓練室だけに置く
- エ：ASD児のAAC支援を統合できる：音声・身振り・AACを組み合わせ、要求だけでなく共有・拒否・コメントなど機能を広げる

答え・解説

正答：ウ

- ア：この対応は正しい。コミュニケーション機能を広く支える語彙が必要である。
- イ：この対応は正しい。システムは一度選べば終わりではない。
- ウ：この対応が誤りである。日常で使えない。
- エ：この対応は正しい。総合的コミュニケーションとして複数手段を活用する。

総合解説：AACは本人だけでなく環境とパートナーへの支援も重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0087

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：基礎

問題

コミュニケーション支援・AACの学習でAAC語彙を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。ここでは「AAC語彙・機能」との関連を手掛かりに整理する。

ア：AACの継続評価を整理する：語彙追加は不要だから
イ：ASD児のAAC支援を統合できる：要求だけであれば十分とする
ウ：AACの最終目標を整理する：訓練室で正答率100%になることだけ
エ：語彙選択の原則を整理する：要求だけでなく、拒否、質問、感情、コメント、社会的やり取りに使える語を含める

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。必要に応じ更新する。
イ：この対応は不適切である。社会的機能も重要である。
ウ：この対応は不適切である。日常参加が重要である。
エ：この対応は適切である。コミュニケーション機能を広く支える語彙が必要である。

総合解説：語彙は年齢、文化、興味、生活場面に合わせて更新する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0088

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション支援・AAC」に関する知識を横断して確認する。AACの継続評価を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：ASD児のAAC支援を統合できる：音声・身振り・AACを組み合わせ、要求だけでなく共有・拒否・コメントなど機能を広げる
イ：AACの最終目標を整理する：本人が多様な場面で自分の意図を効率よく伝え、参加と自己決定が高まること
ウ：AACの継続評価を整理する：学校と家庭で同じ状況しか起こらないから
エ：ASD児へのAAC導入の基本を整理する：発話を補助・代替するために身振り、絵、文字、機器など多様な手段を用いること

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。総合的コミュニケーションとして複数手段を活用する。
イ：この対応は正しい。AACの目的は機能的コミュニケーションの最大化である。
ウ：この対応が誤りである。場面ごとに要求が異なる。
エ：この対応は正しい。AACは音声以外を含む幅広いコミュニケーション手段である。

総合解説：アクセス、語彙、使用率、参加への効果を見直す。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0089

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：応用

問題

コミュニケーション支援・AACの関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： ASD児のAAC支援を統合できる：音声・身振り・AACを組み合わせ、要求だけでなく共有・拒否・コメントなど機能を広げる / AACの最終目標を整理する：本人が多様な場面で自分の意図を効率よく伝え、参加と自己決定が高まること

イ： ASD児へのAAC導入の基本を整理する：発話を禁止する方法 / AAC評価の目的を整理する：発話能力を無視する

ウ： AACに前提能力を要求しすぎないことを整理する：コミュニケーション需要があるなら、能力を理由に一律に導入を遅らせず評価する / AACと発話の関係を整理する：AACを使うと発話を必ず失う

エ： AACシステム選択を症例から判断できる：指タッチだけに限定する / コミュニケーションパートナー支援を整理する：AACで答える時間を待ち、本人の表現を尊重し、日常場面で使用機会を作る

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 総合的コミュニケーションとして複数手段を活用する。 AACの目的は機能的コミュニケーションの最大化である。

イ： に誤りを含む。 発話を併用できる。 残存発話も含めて評価する。

ウ： は正しいが に誤りがある。 そのように一律に断定できない。

エ： に誤りがある。 運動能力に合わない可能性がある。 は正しい。

総合解説：AACはコミュニケーションの量だけでなく機能と参加を広げるために用いる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0090

ASD・知的発達症 > コミュニケーション支援・AAC | 難易度：標準

問題

「コミュニケーション支援・AAC」についてAACの最終目標を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。ここでは「AAC・参加」との関連を手掛かりに整理する。

ア：ASD児へのAAC導入の基本を整理する：発話を補助・代替するために身振り、絵、文字、機器など多様な手段を用いること

イ：AAC評価の目的を整理する：本人の能力・環境・目的に合い、機能的コミュニケーションを最大化するシステムを選ぶこと

ウ：AACに前提能力を要求しすぎないことを整理する：コミュニケーション需要があるなら、能力を理由に一律に導入を遅らせず評価する

エ：AACの最終目標を整理する：発話を完全に使わなくなること

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。AACは音声以外を含む幅広いコミュニケーション手段である。

イ：この対応は正しい。AAC評価は継続的な意思決定過程である。

ウ：この対応は正しい。AACは早期から機能的コミュニケーションを支え得る。

エ：この対応が誤りである。発話と併用できる。

総合解説：生活場面での成功、満足度、参加を継続的に評価する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0091

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：基礎

問題

発達性読み書き障害の学習で読み技能の基礎を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：音韻意識の役割を整理する：音韻意識が高いほど聴力閾値が下がるから
イ：読みのデコーディングを整理する：文字や文字列を対応する音へ変換して語を同定する過程
ウ：読みの流暢性を整理する：文字を一字も読まず内容を推測すること
エ：綴りの評価項目を整理する：絵の色だけを答える

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。聴力閾値とは別の機能である。
イ：この対応は適切である。デコーディングは文字と音の対応を利用して語を読む基礎的過程である。
ウ：この対応は不適切である。読みの流暢性ではない。
エ：この対応は不適切である。綴り能力をみない。

総合解説：読み書き障害の評価では、文字知識、音韻意識、デコーディング、流暢性、読解などを分けて確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0092

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：標準

問題

「発達性読み書き障害」に関する知識を横断して確認する。音韻意識の役割を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：読みの流暢性を整理する：文章や語を正確かつ適切な速さとまとまりで読む能力
イ：綴りの評価項目を整理する：聞いた語を書き取らせ、音韻・文字・形態の誤りを分析する
ウ：単語認識と読解を区別できる：デコーディングだけでなく語彙、統語、推論、談話理解を評価する
エ：音韻意識の役割を整理する：文字の大きさだけを覚える力だから

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。流暢性は正確さ、速度、韻律などを含む読みの側面である。
イ：この対応は正しい。綴りでは音と文字の対応だけでなく、形態や正書法の知識も関係する。
ウ：この対応は正しい。単語認識が良好でも読解障害が存在することがある。
エ：この対応が誤りである。視覚的形狀だけを扱う能力ではない。

総合解説：音韻意識、文字音対応、語認識は初期読み発達で相互に関係する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0093

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：基礎

問題

「発達性読み書き障害」の読み技能を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：綴りの評価項目を整理する：絵の色だけを答える
イ：単語認識と読解を区別できる：視力だけで原因を説明する
ウ：発達性読み書き障害で非語読みを使う意義を整理する：文章の背景知識だけを評価するから
エ：読みの流暢性を整理する：文章や語を正確かつ適切な速さとまとまりで読む能力

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。綴り能力をみない。
イ：この対応は不適切である。言語理解の評価が必要である。
ウ：この対応は不適切である。デコーディングの評価が中心である。
エ：この対応は適切である。流暢性は正確さ、速度、韻律などを含む読みの側面である。

総合解説：単語認識が自動化すると認知資源を読解へ振り向けやすくなる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0094

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：標準

問題

「発達性読み書き障害」について綴りの評価項目を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：単語認識と読解を区別できる：デコーディングだけでなく語彙、統語、推論、談話理解を評価する
イ：綴りの評価項目を整理する：舌の可動域だけを測る
ウ：発達性読み書き障害で非語読みを使う意義を整理する：既知語の記憶に頼りにくく、文字と音を対応させて読む力を評価しやすいから
エ：文字知識を整理する：文字の形、名称、対応する音についての知識

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。単語認識が良好でも読解障害が存在することがある。
イ：この対応が誤りである。口腔運動評価である。
ウ：この対応は正しい。非語読みは新規文字列のデコーディング能力をみるのに役立つ。
エ：この対応は正しい。文字知識はデコーディングや綴りの基盤となる。

総合解説：読み書き評価では読みと書きの双方をみて、誤りの質も分析する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0095

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：応用

問題

発達性読み書き障害の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 文字知識を整理する：声帯振動の周期だけ / 形態意識と読み書きの関係を整理する：形態意識は聴力閾値の別名だから

イ： 単語認識と読解を区別できる：デコーディングだけでなく語彙、統語、推論、談話理解を評価する / 発達性読み書き障害で非語読みを使う意義を整理する：既知語の記憶に頼りにくく、文字と音を対応させて読む力を評価しやすいから

ウ： 読み書きの困難を症例から判断できる：発達性読み書き障害を含む読み書き能力 / 読み書き障害と視聴覚障害の鑑別を整理する：感覚障害があれば読み書き評価は不要だから

エ： 読み書き介入の基本を整理する：読解だけを行い基礎技能を評価しない / 合理的配慮と読み書き支援を整理する：読み上げ、ICT、課題量や時間の調整など、学習目標を損なわない方法を個別に検討する

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 音響・発声の側面である。 異なる概念である。

イ： とも正しい。 単語認識が良好でも読解障害が存在することがある。 非語読みは新規文字列のデコーディング能力をみるのに役立つ。

ウ： は正しいが に誤りがある。 必要に応じ調整して評価する。

エ： に誤りがある。 下位技能の弱さを見逃す。 は正しい。

総合解説：読みはデコーディングと口頭言語理解の両方に支えられるため、下位技能を分けてみる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0096

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：標準

問題

「発達性読み書き障害」に関する知識を横断して確認する。発達性読み書き障害で非語読みを使う意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：文字知識を整理する：文字の形、名称、対応する音についての知識

イ：形態意識と読み書きの関係を整理する：語幹や接辞など語の構造を理解し、語の意味や綴りを推測する手掛かりになるため

ウ：読み書きの困難を症例から判断できる：発達性読み書き障害を含む読み書き能力

エ：発達性読み書き障害で非語読みを使う意義を整理する：聴力を直接測定できるから

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。文字知識はデコーディングや綴りの基盤となる。

イ：この対応は正しい。読み書きには音韻だけでなく形態・語彙知識も関係する。

ウ：この対応は正しい。音韻処理・デコーディング・綴りのまとまった困難が示唆される。

エ：この対応が誤りである。聴力検査ではない。

総合解説：既知語読みと非語読みの両方をみることで読みの方略を分析できる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0097

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：基礎

問題

「発達性読み書き障害」の初期リテラシーを確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：文字知識を整理する：文字の形、名称、対応する音についての知識
イ：形態意識と読み書きの関係を整理する：形態意識は聴力閾値の別名だから
ウ：読み書きの困難を症例から判断できる：声帯機能だけ
エ：読み書き障害と視聴覚障害の鑑別を整理する：視力・聴力が正常なら読み書き障害は必ずないから

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。文字知識はデコーディングや綴りの基盤となる。
イ：この対応は不適切である。異なる概念である。
ウ：この対応は不適切である。読み書き困難を説明しない。
エ：この対応は不適切である。正常でも読み書き障害は生じる。

総合解説：文字知識と音韻意識は就学前後の読み学習に重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0098

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：標準

問題

「発達性読み書き障害」について形態意識と読み書きの関係を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：読み書きの困難を症例から判断できる：発達性読み書き障害を含む読み書き能力
イ：形態意識と読み書きの関係を整理する：形態素は書き言葉に関係しないから
ウ：読み書き障害と視聴覚障害の鑑別を整理する：感覚障害が課題成績へ影響していないか確認し、困難の原因を適切に鑑別するため
エ：読み書き介入の基本を整理する：弱い下位技能を特定し、音韻意識・文字音対応・デコーディング・綴りなどを明示的に指導する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。音韻処理・デコーディング・綴りのまとまった困難が示唆される。
イ：この対応が誤りである。形態知識は綴りや語彙理解に関係する。
ウ：この対応は正しい。読み書きの困難は感覚入力の問題だけでは説明できないかを確認する必要がある。
エ：この対応は正しい。読み書き介入は評価で特定した技能に応じて行う。

総合解説：学齢期以降は形態意識が語彙、綴り、読解へ寄与する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0099

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：応用

問題

「発達性読み書き障害」について読み書きの困難を症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア：読み書き介入の基本を整理する：誤りを指摘せず課題を避け続ける / 合理的配慮と読み書き支援を整理する：全員に同じ配慮を一律に適用する

イ：読み書きの困難を症例から判断できる：発達性読み書き障害を含む読み書き能力 / 読み書き障害と視聴覚障害の鑑別を整理する：感覚障害が課題成績へ影響していないか確認し、困難の原因を適切に鑑別するため

ウ：読みのデコーディングを整理する：文字や文字列を対応する音へ変換して語を同定する過程 / 音韻意識の役割を整理する：文の意味を考えなくても必ず読解できるようになるから

エ：読みの流暢性を整理する：語の意味だけを知っていること / 綴りの評価項目を整理する：聞いた語を書き取らせ、音韻・文字・形態の誤りを分析する

答え・解説

正答：イ

ア：に誤りを含む。技能獲得につながらない。個性が必要である。

イ：とも正しい。音韻処理・デコーディング・綴りのまとまった困難が示唆される。読み書きの困難は感覚入力の問題だけでは説明できないかを確認する必要がある。

ウ：は正しいがに誤りがある。読解には語彙・統語・背景知識なども必要である。

エ：に誤りがある。語彙知識だけでは流暢性を表さない。は正しい。

総合解説：読み書き障害の診断・支援では、読み速度・正確さ、綴り、読解、言語能力、教育歴を総合する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0100

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：標準

問題

「発達性読み書き障害」に関する知識を横断して確認する。読み書き障害と視聴覚障害の鑑別を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：読み書き介入の基本を整理する：弱い下位技能を特定し、音韻意識・文字音対応・デコーディング・綴りなどを明示的に指導する

イ：合理的配慮と読み書き支援を整理する：読み上げ、ICT、課題量や時間の調整など、学習目標を損なわない方法を個別に検討する

ウ：読みのデコーディングを整理する：文字や文字列を対応する音へ変換して語を同定する過程

エ：読み書き障害と視聴覚障害の鑑別を整理する：視力だけで音韻意識が分かるから

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。読み書き介入は評価で特定した技能に応じて行う。

イ：この対応は正しい。合理的配慮は本人の教育的ニーズに応じて決定し、必要に応じ見直す。

ウ：この対応は正しい。デコーディングは文字と音の対応を利用して語を読む基礎的過程である。

エ：この対応が誤りである。別の能力である。

総合解説：発達性読み書き障害を考える際は感覚、知的機能、教育機会、言語背景などを含めて評価する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0101

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：基礎

問題

「発達性読み書き障害」の介入を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：合理的配慮と読み書き支援を整理する：全員に同じ配慮を一律に適用する
イ：読みのデコーディングを整理する：文章の主題だけを推論する過程
ウ：読み書き介入の基本を整理する：弱い下位技能を特定し、音韻意識・文字音対応・デコーディング・綴りなどを明示的に指導する
エ：音韻意識の役割を整理する：音韻意識が高いほど聴力閾値が下がるから

答え・解説

正答：ウ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0102

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：標準

問題

「発達性読み書き障害」について合理的配慮と読み書き支援を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：合理的配慮と読み書き支援を整理する：本人・保護者と相談せず学校だけで固定する
イ：読みのデコーディングを整理する：文字や文字列を対応する音へ変換して語を同定する過程
ウ：音韻意識の役割を整理する：話しことばを音節や音素へ分け、文字と音の対応を学ぶ基盤になるため
エ：読みの流暢性を整理する：文章や語を正確かつ適切な速さとまとまりで読む能力

答え・解説

正答：ア

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0101

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：基礎

問題

「発達性読み書き障害」の介入を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：合理的配慮と読み書き支援を整理する：全員に同じ配慮を一律に適用する
イ：読みのデコーディングを整理する：文章の主題だけを推論する過程
ウ：読み書き介入の基本を整理する：弱い下位技能を特定し、音韻意識・文字音対応・デコーディング・綴りなどを明示的に指導する
エ：音韻意識の役割を整理する：音韻意識が高いほど聴力閾値が下がるから

答え・解説

正答：ウ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0102

学習障害・読み書き > 発達性読み書き障害 | 難易度：標準

問題

「発達性読み書き障害」について合理的配慮と読み書き支援を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：合理的配慮と読み書き支援を整理する：本人・保護者と相談せず学校だけで固定する
イ：読みのデコーディングを整理する：文字や文字列を対応する音へ変換して語を同定する過程
ウ：音韻意識の役割を整理する：話しことばを音節や音素へ分け、文字と音の対応を学ぶ基盤になるため
エ：読みの流暢性を整理する：文章や語を正確かつ適切な速さとまとまりで読む能力

答え・解説

正答：ア

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0103

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：基礎

問題

学習障害・認知特性の学習で法制度・定義を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：LDと知的発達症を区別できる：知的発達症では適応行動を評価しない
イ：文部科学省のLD定義を整理する：全般的な知的発達に基本的な遅れはないが、聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態
ウ：LDが複数領域にまたがり得ることを整理する：必ず話す能力だけが障害される
エ：学習困難の背景を幅広く評価できる：本人の努力量だけ

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。適応行動は重要である。
イ：この対応は適切である。文部科学省は特定の学習能力に著しい困難を示す状態としてLDを定義している。
ウ：この対応は不適切である。限定されない。
エ：この対応は不適切である。医学・教育・発達要因を見落とす。

総合解説：日本の教育上のLD定義では、聞く・話す・読む・書く・計算・推論という学習能力を対象としている。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0104

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：標準

問題

「学習障害・認知特性」に関する知識を横断して確認する。LDと知的発達症を区別できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：LDと知的発達症を区別できる：LDでは必ず全ての教科が同程度に困難になる
イ：LDが複数領域にまたがり得ることを整理する：一つだけでなく複数の学習領域に困難がみられることもある
ウ：学習困難の背景を幅広く評価できる：視聴覚、知的機能、言語、情緒、教育機会、家庭・文化的背景など
エ：学習プロフィールの不均衡を統合して判断できる：学習能力は領域ごとに評価し、特定の学習困難がないか検討する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。特定領域に強い困難がみられる。
イ：この対応は正しい。定義上は特定能力の困難だが、実際には複数領域に困難を示す場合もある。
ウ：この対応は正しい。学業不振には多様な要因があり、直接原因を鑑別する必要がある。
エ：この対応は正しい。全体成績だけでは特定領域の強い弱さを見落とすことがある。

総合解説：鑑別では知的機能、適応行動、学習成績、言語・感覚・教育歴を統合する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0105

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：基礎

問題

「学習障害・認知特性」の症候を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：学習困難の背景を幅広く評価できる：本人の努力量だけ
イ：学習プロフィールの不均衡を統合して判断できる：読解が良いのでLDは絶対にはないとする
ウ：ワーキングメモリなど認知特性の扱いを整理する：認知特性は教育支援と無関係である
エ：LDが複数領域にまたがり得ることを整理する：一つだけでなく複数の学習領域に困難がみられることもある

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。医学・教育・発達要因を見落とす。
イ：この対応は不適切である。他領域の困難があり得る。
ウ：この対応は不適切である。指示方法や課題構成の検討に役立つ。
エ：この対応は適切である。定義上は特定能力の困難だが、実際には複数領域に困難を示す場合もある。

総合解説：困難の組合せを個別プロフィールとして把握することが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0106

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：標準

問題

「学習障害・認知特性」について学習困難の背景を幅広く評価できるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：学習プロフィールの不均衡を統合して判断できる：学習能力は領域ごとに評価し、特定の学習困難がないか検討する
イ：ワーキングメモリなど認知特性の扱いを整理する：学習課題でどのような認知負荷に弱いかを理解し、支援方法を考える手掛かりにする
ウ：学習困難の背景を幅広く評価できる：担任の印象だけ
エ：学習障害で二次的問題が生じ得ることを整理する：失敗体験の蓄積による自信低下や学校回避

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。全体成績だけでは特定領域の強い弱さを見落とすことがある。
イ：この対応は正しい。認知特性は学習困難の仕組みや配慮を考える補助情報になる。
ウ：この対応が誤りである。複数情報源が必要である。
エ：この対応は正しい。学習困難が続くと心理社会的な影響が加わることがある。

総合解説：LD評価では標準化検査、学校成績、観察、発達歴などを統合する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0107

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：応用

問題

学習障害・認知特性の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 学習障害で二次的問題が生じ得ることを整理する：必ず視力が低下する / LDとADHD等の併存を整理する：注意の問題があれば読み書き評価は不要である

イ： 学習困難を症例から多面的に評価できる：聴覚・視覚、注意、言語、読み書き、処理速度など複数要因を整理して評価する / 強みに基づく支援を整理する：得意な方法の使用を禁止する

ウ： 文部科学省のLD定義を整理する：知的発達が必ず重度に遅れる状態 / LDと知的発達症を区別できる：学習障害では全般的知的発達に基本的な遅れはなく、特定領域の習得困難が中心となる

エ： 学習プロフィールの不均衡を統合して判断できる：学習能力は領域ごとに評価し、特定の学習困難がないか検討する / ワーキングメモリなど認知特性の扱いを整理する：学習課題でどのような認知負荷に弱いかを理解し、支援方法を考える手掛かりにする

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア： に誤りを含む。 直接的な結果ではない。 両方を評価する。

イ： は正しいが に誤りがある。 学習アクセスを妨げる。

ウ： に誤りがある。 LDの基本定義とは異なる。 は正しい。

エ： とも正しい。 全体成績だけでは特定領域の強い弱さを見落とすことがある。 認知特性は学習困難の仕組みや配慮を考える補助情報になる。

総合解説：学習障害では強みと弱みが不均衡なことがあり、支援は領域別に設計する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0108

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：標準

問題

「学習障害・認知特性」に関する知識を横断して確認する。ワーキングメモリなど認知特性の扱いを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：学習障害で二次的問題が生じ得ることを整理する：失敗体験の蓄積による自信低下や学校回避

イ：LDとADHD等の併存を整理する：注意・実行機能など他の発達特性が併存することもあるため、必要に応じて広く評価する

ウ：ワーキングメモリなど認知特性の扱いを整理する：IQの下位得点だけで支援資格を決める

エ：学習困難を症例から多面的に評価できる：聴覚・視覚、注意、言語、読み書き、処理速度など複数要因を整理して評価する

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。学習困難が続くと心理社会的な影響が加わることがある。

イ：この対応は正しい。学習上の困難は単一要因だけで説明できない場合がある。

ウ：この対応が誤りである。単独使用は不適切である。

エ：この対応は正しい。一つの症状に複数の要因が関わる可能性がある。

総合解説：認知検査の結果は学習課題・言語・教育環境と結びつけて解釈する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0109

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：基礎

問題

「学習障害・認知特性」の心理社会的影響を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：学習障害で二次の問題が生じ得ることを整理する：失敗体験の蓄積による自信低下や学校回避
イ：LDとADHD等の併存を整理する：注意の問題があれば読み書き評価は不要である
ウ：学習困難を症例から多面的に評価できる：読み書き障害だけと即断する
エ：強みに基づく支援を整理する：苦手な方法だけを反復する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。学習困難が続くと心理社会的な影響が加わることがある。
イ：この対応は不適切である。両方を評価する。
ウ：この対応は不適切である。鑑別が不十分である。
エ：この対応は不適切である。強みを活かさない。

総合解説：早期に強みを活かし、達成可能な学習環境を作ることが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0110

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：標準

問題

「学習障害・認知特性」についてLDとADHD等の併存を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：LDとADHD等の併存を整理する：LDがあれば他の発達特性は絶対にない
イ：学習困難を症例から多面的に評価できる：聴覚・視覚、注意、言語、読み書き、処理速度など複数要因を整理して評価する
ウ：強みに基づく支援を整理する：苦手な技能を支援しつつ、得意な視覚情報や口頭説明など本人の強みを学習に活用する
エ：文部科学省のLD定義を整理する：全般的な知的発達に基本的な遅れはないが、聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。併存し得る。
イ：この対応は正しい。一つの症状に複数の要因が関わる可能性がある。
ウ：この対応は正しい。個々の学習プロフィールに合わせて教材・提示方法を調整する。
エ：この対応は正しい。文部科学省は特定の学習能力に著しい困難を示す状態としてLDを定義している。

総合解説：併存特性がある場合は、それぞれが学習へどう影響するかを検討する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0111

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：応用

問題

「学習障害・認知特性」について学習困難を症例から多面的に評価できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 文部科学省のLD定義を整理する：視覚障害だけで学習が困難な状態 / LDと知的発達症を区別できる：LDでは必ず全ての教科が同程度に困難になる

イ： 学習困難を症例から多面的に評価できる：聴覚・視覚、注意、言語、読み書き、処理速度など複数要因を整理して評価する / 強みに基づく支援を整理する：苦手な技能を支援しつつ、得意な視覚情報や口頭説明など本人の強みを学習に活用する

ウ： LDが複数領域にまたがり得ることを整理する：一つだけでなく複数の学習領域に困難がみられることもある / 学習困難の背景を幅広く評価できる：本人の努力量だけ

エ： 学習プロフィールの不均衡を統合して判断できる：読解が良いのでLDは絶対がないとする / ワーキングメモリなど認知特性の扱いを整理する：学習課題でどのような認知負荷に弱いかを理解し、支援方法を考える手掛かりにする

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 視覚障害が直接原因のものはLDの定義から区別される。 特定領域に強い困難がみられる。

イ： とも正しい。 一つの症状に複数の要因が関わる可能性がある。 個々の学習プロフィールに合わせて教材・提示方法を調整する。

ウ： は正しいが に誤りがある。 医学・教育・発達要因を見落とす。

エ： に誤りがある。 他領域の困難があり得る。 は正しい。

総合解説：支援につながる評価では、どの課題条件で困難が生じるかを具体的に分析する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0112

学習障害・読み書き > 学習障害・認知特性 | 難易度：標準

問題

「学習障害・認知特性」に関する知識を横断して確認する。強みに基づく支援を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：文部科学省のLD定義を整理する：全般的な知的発達に基本的な遅れはないが、聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態

イ：LDと知的発達症を区別できる：学習障害では全般的知的発達に基本的な遅れはなく、特定領域の習得困難が中心となる

ウ：強みに基づく支援を整理する：全員に同じ支援を行う

エ：LDが複数領域にまたがり得ることを整理する：一つだけでなく複数の学習領域に困難がみられることもある

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。文部科学省は特定の学習能力に著しい困難を示す状態としてLDを定義している。

イ：この対応は正しい。文部科学省のLD定義は全般的知的発達の遅れを基本要件としない。

ウ：この対応が誤りである。個性がない。

エ：この対応は正しい。定義上は特定能力の困難だが、実際には複数領域に困難を示す場合もある。

総合解説：特別支援教育では一人一人の教育的ニーズに応じた指導・配慮が基本となる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0113

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：基礎

問題

「評価・教育的支援」の評価原則を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：移行期における個別の教育支援計画の役割を整理する：一度作ったら見直さない
イ：合理的配慮の考え方を整理する：本人の希望を確認せず学校だけで決める
ウ：学習評価で複数情報源を使う意義を整理する：標準検査、授業中の観察、学習成果物、家庭・教師情報を組み合わせる
エ：読み書き評価と支援を結びつけられる：読解内容の学習を全て中止する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。状況に応じ更新する。
イ：この対応は不適切である。合意形成が重要である。
ウ：この対応は適切である。一つの検査だけでは学校での実際の困難を十分に把握できない。
エ：この対応は不適切である。学習機会を奪う。

総合解説：評価結果は教育的支援に直結する形で整理する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0114

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：標準

問題

「評価・教育的支援」について移行期における個別の教育支援計画の役割を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：合理的配慮の考え方を整理する：障害による学習上の不利益を減らすため、本人のニーズに応じ必要な変更・調整を行う
イ：移行期における個別の教育支援計画の役割を整理する：診断名だけを記載する
ウ：読み書き評価と支援を結びつけられる：音韻意識と文字音対応を明示的に指導し、必要に応じ読み上げ等で学習内容へのアクセスも保障する
エ：評価条件の調整を適切に行える：必要に応じ問題文を読み上げるなど、理科知識を測れる方法へ調整する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。合理的配慮は一人一人の障害状態と教育的ニーズに応じて検討する。
イ：この対応が誤りである。具体的ニーズや支援が重要である。
ウ：この対応は正しい。基礎読み技能への直接介入と学習アクセスの補償を併用する。
エ：この対応は正しい。評価目的と無関係な読み障害の影響を減らす配慮が考えられる。

総合解説：合理的配慮や関係機関との連携内容を明確にし、移行期の引継ぎにも活用する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0115

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：基礎

問題

評価・教育的支援の学習で教育制度を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：読み書き評価と支援を結びつけられる：読解内容の学習を全て中止する
イ：合理的配慮の考え方を整理する：障害による学習上の不利益を減らすため、本人のニーズに応じ必要な変更・調整を行う
ウ：評価条件の調整を適切に行える：評価を一切しない
エ：教育支援の効果をモニタリングできる：本人の感想を一切聞かない

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。学習機会を奪う。
イ：この対応は適切である。合理的配慮は一人一人の障害状態と教育的ニーズに応じて検討する。
ウ：この対応は不適切である。学習成果を把握できない。
エ：この対応は不適切である。参加・負担の把握も重要である。

総合解説：配慮は固定ではなく、発達や適応の状況に応じ柔軟に見直す。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0116

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：標準

問題

「評価・教育的支援」に関する知識を横断して確認する。読み書き評価と支援を結びつけられるうえで誤っている対応はどれか。

ア：評価条件の調整を適切に行える：必要に応じ問題文を読み上げるなど、理科知識を測れる方法へ調整する
イ：教育支援の効果をモニタリングできる：同じ技能指標を定期的に測り、読みの正確さ・速度・綴りや学習参加の変化を確認する
ウ：読み書き評価と支援を結びつけられる：聴覚的な強みを使わない
エ：ICT活用を整理する：キーボード入力や音声入力など、内容表現を補助するICTを検討する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。評価目的と無関係な読み障害の影響を減らす配慮が考えられる。
イ：この対応は正しい。支援は実施後の反応を継続的に確認し調整する。
ウ：この対応が誤りである。強みを活かすべきである。
エ：この対応は正しい。書字運動や綴りの負荷を補償し、学習内容を表現しやすくできる。

総合解説：直接指導と合理的配慮は競合せず、両方必要な場合がある。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0117

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：応用

問題
「評価・教育的支援」について評価条件の調整を適切に行えるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

- ア： ICT活用を整理する：ICTを使うと必ず学習効果が下がるとみなす / 支援計画を症例から統合できる：本人のつらさを努力不足とみなす
- イ： 学習評価で複数情報源を使う意義を整理する：標準検査、授業中の観察、学習成果物、家庭・教師情報を組み合わせる / 移行期における個別的教育支援計画の役割を整理する：診断名だけを記載する
- ウ： 合理的配慮の考え方を整理する：全ての児童に同じ方法を強制する / 読み書き評価と支援を結びつけられる：音韻意識と文字音対応を明示的に指導し、必要に応じ読み上げ等で学習内容へのアクセスも保障する
- エ： 評価条件の調整を適切に行える：必要に応じ問題文を読み上げるなど、理科知識を測れる方法へ調整する / 教育支援の効果をモニタリングできる：同じ技能指標を定期的に測り、読みの正確さ・速度・綴りや学習参加の変化を確認する

答え・解説

正答：エ

- ア： に誤りを含む。 個別に効果を評価する。 二次的問題を強める。
- イ： は正しいが に誤りがある。 具体的ニーズや支援が重要である。
- ウ： に誤りがある。 個別の調整ではない。 は正しい。
- エ： とも正しい。 評価目的と無関係な読み障害の影響を減らす配慮が考えられる。 支援は実施後の反応を継続的に確認し調整する。

総合解説：配慮は何を測りたい評価かを明確にして設計する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0118

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：標準

問題
「評価・教育的支援」について教育支援の効果をモニタリングできるように関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：教育支援の効果をモニタリングできる：成績だけで全て判断する
- イ：ICT活用を整理する：キーボード入力や音声入力など、内容表現を補助するICTを検討する
- ウ：支援計画を症例から統合できる：読み技能への直接指導、宿題量・方法の調整、得意分野での成功経験、本人・保護者・学校の共有を組み合わせる
- エ：学習評価で複数情報源を使う意義を整理する：標準検査、授業中の観察、学習成果物、家庭・教師情報を組み合わせる

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応が誤りである。下位技能や参加もみる。
- イ：この対応は正しい。書字運動や綴りの負荷を補償し、学習内容を表現しやすくなる。
- ウ：この対応は正しい。技能・環境・心理社会面を同時に支える必要がある。
- エ：この対応は正しい。一つの検査だけでは学校での実際の困難を十分に把握できない。

総合解説：進歩モニタリングにより支援の強度・方法の見直しが可能になる。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0119

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：標準

問題

評価・教育的支援の学習で教育支援を行う。次の整理のうち不適切なものはどれか。

ア：支援計画を症例から統合できる：読み技能への直接指導・宿題量・方法の調整、得意分野での成功経験、本人・保護者・学校の共有を組み合わせる

イ：学習評価で複数情報源を使う意義を整理する：標準検査、授業中の観察、学習成果物、家庭・教師情報を組み合わせる

ウ：移行期における個別的教育支援計画の役割を整理する：本人の教育的ニーズや支援内容を関係者で共有し、進級・進学などでも一貫した支援につなげる

エ：ICT活用を整理する：内容理解を評価しない

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。技能・環境・心理社会面を同時に支える必要がある。

イ：この対応は正しい。一つの検査だけでは学校での実際の困難を十分に把握できない。

ウ：この対応は正しい。学校内外の関係者が支援方針を共有するために活用される。

エ：この対応が誤りである。強みを活かさない。

総合解説：ICTは目的、本人の能力、学校環境に合わせて選び、使い方を指導する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0120

学習障害・読み書き > 評価・教育的支援 | 難易度：応用

問題

「評価・教育的支援」について支援計画を症例から統合できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア：移行期における個別的教育支援計画の役割を整理する：担任だけが閲覧し他職種とは共有しない / 合理的配慮の考え方を整理する：教育目標を一切持たせない

イ：読み書き評価と支援を結びつけられる：音韻意識と文字音対応を明示的に指導し、必要に応じ読み上げ等で学習内容へのアクセスも保障する / 評価条件の調整を適切に行える：読みの困難も含めて必ず同じ条件で測る

ウ：支援計画を症例から統合できる：読み技能への直接指導・宿題量・方法の調整、得意分野での成功経験、本人・保護者・学校の共有を組み合わせる / 学習評価で複数情報源を使う意義を整理する：標準検査、授業中の観察、学習成果物、家庭・教師情報を組み合わせる

エ：教育支援の効果をモニタリングできる：成績だけで全て判断する / ICT活用を整理する：キーボード入力や音声入力など、内容表現を補助するICTを検討する

答え・解説

正答：ウ

ア：に誤りを含む。必要な範囲で連携する。配慮の目的ではない。

イ：は正しいがに誤りがある。理科知識の評価を歪める場合がある。

ウ：とも正しい。技能・環境・心理社会面を同時に支える必要がある。一つの検査だけでは学校での実際の困難を十分に把握できない。

エ：に誤りがある。下位技能や参加もみる。は正しい。

総合解説：教育的支援では障害の改善だけでなく、学習参加と自己効力感を守る視点が重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0121脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：基礎

問題
「脳性麻痺・運動発達」の定義を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：脳性麻痺の基本概念を整理する：発達中の脳の異常発達や損傷により、運動・姿勢・バランスの障害を生じる一群の状態
イ：痙直型CPを整理する：平衡障害だけが中心である
ウ：ジスキネジア型CPを整理する：視力低下だけ
エ：失調型CPを整理する：不随意運動だけが主症状である

答え・解説正答：ア

ア：この対応は適切である。CDCはCPを運動、姿勢、バランスへ影響する障害群として説明している。
イ：この対応は不適切である。失調型の特徴に近い。
ウ：この対応は不適切である。病型の中心ではない。
エ：この対応は不適切である。ジスキネジア型の特徴に近い。

総合解説：CPの脳病変自体は進行性ではないが、症状や機能上の問題は成長に伴って変化し得る。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0122脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：標準

問題
「脳性麻痺・運動発達」について痙直型CPを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：痙直型CPを整理する：不随意運動だけが唯一の症状である
イ：ジスキネジア型CPを整理する：自分で制御しにくい不随意運動と変動する筋緊張
ウ：失調型CPを整理する：バランスや協調運動が不安定になりやすい
エ：CPの運動発達を統合して評価できる：運動発達の遅れとして医学的・発達の評価へつなげ、他の発達領域も確認する

答え・解説正答：ア

ア：この対応が誤りである。ジスキネジア型の特徴に近い。
イ：この対応は正しい。ジスキネジア型ではゆっくりねじれる運動や急な運動、筋緊張の変動がみられる。
ウ：この対応は正しい。失調型では平衡・協調の問題が目立つ。
エ：この対応は正しい。CPでは運動マイルストーンの遅れや左右差が早期所見になることがある。

総合解説：痙直型では障害部位により両麻痺、片麻痺、四肢麻痺などに分けられる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0123

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：基礎

問題

脳性麻痺・運動発達の学習で病型を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：ジスキネジア型CPを整理する：自分で制御しにくい不随意運動と変動する筋緊張
イ：失調型CPを整理する：不随意運動だけが主症状である
ウ：CPの運動発達を統合して評価できる：ことばが出るまで必ず評価を待つ
エ：CPでコミュニケーション障害が生じ得る理由を整理する：AACはCPでは使用できないから

答え・解説

正答：ア

ア：この対応は適切である。ジスキネジア型ではゆっくりねじれる運動や急な運動、筋緊張の変動がみられる。
イ：この対応は不適切である。ジスキネジア型の特徴に近い。
ウ：この対応は不適切である。早期評価が重要である。
エ：この対応は不適切である。必要に応じてAACを利用できる。

総合解説：顔や舌の運動が影響すると摂食嚥下や発話にも困難が生じることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0124

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：標準

問題

「脳性麻痺・運動発達」に関する知識を横断して確認する。失調型CPを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：CPの運動発達を統合して評価できる：運動発達の遅れとして医学的・発達の評価へつなげ、他の発達領域も確認する
イ：CPでコミュニケーション障害が生じ得る理由を整理する：運動障害が発声・構音やAAC操作に影響し、聴覚・視覚・認知の併存問題もあり得るため
ウ：CPが非進行性である意味を整理する：原因となる脳の損傷そのものが時間とともに進行する病気ではない
エ：失調型CPを整理する：聴力低下だけが主症状である

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。CPでは運動マイルストーンの遅れや左右差が早期所見になることがある。
イ：この対応は正しい。CPでは運動機能だけでなくコミュニケーションへ幅広い影響が出ることがある。
ウ：この対応は正しい。CPの基礎病変は進行性ではない。
エ：この対応が誤りである。CP病型の中心ではない。

総合解説：書字や手を伸ばすなど精密な運動でも困難がみられることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0125脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：応用

問題

脳性麻痺・運動発達の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： CPが非進行性である意味を整理する：発達が停止することを意味する / 運動障害と知的能力を分けて評価できる：発話できないので理解も低いと決めつける

イ： CPの運動発達を統合して評価できる：運動発達の遅れとして医学的・発達の評価へつなげ、他の発達領域も確認する / CPでコミュニケーション障害が生じ得る理由を整理する：運動障害が発声・構音やAAC操作に影響し、聴覚・視覚・認知の併存問題もあり得るため

ウ： AACの必要性をCP症例から判断できる：視線入力などを含むAAC評価を行い、発話と併用できる手段を検討する / CP支援で多職種連携が必要な理由を整理する：支援目標を各職種が別々に設定した方がよいから

エ： 脳性麻痺の基本概念を整理する：聴力低下だけを特徴とする状態 / 痙直型CPを整理する：筋緊張が高く、筋が硬くなりやすい

答え・解説

正答：イ

ア： に誤りを含む。 発達や学習は続く。 表出手段と理解は別である。

イ： とも正しい。 CPでは運動マイルストーンの遅れや左右差が早期所見になることがある。 CPでは運動機能だけでなくコミュニケーションへ幅広い影響が出ることがある。

ウ： は正しいが に誤りがある。 共有目標が重要である。

エ： に誤りがある。 中心は運動・姿勢制御の障害である。 は正しい。

総合解説：CPが疑われる場合、運動だけでなく摂食、感覚、認知、コミュニケーションなどを包括的に確認する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0126脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：標準

問題

「脳性麻痺・運動発達」についてCPでコミュニケーション障害が生じ得る理由を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：CPが非進行性である意味を整理する：原因となる脳の損傷そのものが時間とともに進行する病気ではない

イ：運動障害と知的能力を分けて評価できる：運動反応の制約を考慮し、視線やスイッチなど代替反応方法を使って能力を評価する

ウ：CPでコミュニケーション障害が生じ得る理由を整理する：CPでは発話が必ず正常だから

エ：AACの必要性をCP症例から判断できる：視線入力などを含むAAC評価を行い、発話と併用できる手段を検討する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。CPの基礎病変は進行性ではない。

イ：この対応は正しい。運動障害が強いと通常の検査形式が能力を過小評価することがある。

ウ：この対応が誤りである。個人差が大きい。

エ：この対応は正しい。コミュニケーション能力と運動アクセスを分けて評価する。

総合解説：話す能力だけでなく理解、意図、アクセス方法を分けて評価することが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0127

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：基礎

問題

脳性麻痺・運動発達の学習で経過を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：運動障害と知的能力を分けて評価できる：発話できないので理解も低いと決めつける
イ：AACの必要性をCP症例から判断できる：発話訓練が終わるまでAACを禁止する
ウ：CPが非進行性である意味を整理する：原因となる脳の損傷そのものが時間とともに進行する病気ではない
エ：CP支援で多職種連携が必要な理由を整理する：家族は支援チームに含めないから

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。表出手段と理解は別である。
イ：この対応は不適切である。機能的コミュニケーションを保障する必要がある。
ウ：この対応は適切である。CPの基礎病変は進行性ではない。
エ：この対応は不適切である。家族との協働が重要である。

総合解説：成長に伴い拘縮や活動上の困難が変化するため継続的なフォローが必要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0128

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：標準

問題

「脳性麻痺・運動発達」に関する知識を横断して確認する。運動障害と知的能力を分けて評価できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：運動障害と知的能力を分けて評価できる：運動障害の程度だけで知的能力を決める
イ：AACの必要性をCP症例から判断できる：視線入力などを含むAAC評価を行い、発話と併用できる手段を検討する
ウ：CP支援で多職種連携が必要な理由を整理する：運動、姿勢、摂食嚥下、コミュニケーション、教育など複数領域の課題が相互に影響するため
エ：脳性麻痺の基本概念を整理する：発達中の脳の異常発達や損傷により、運動・姿勢・バランスの障害を生じる一群の状態

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。不適切である。
イ：この対応は正しい。コミュニケーション能力と運動アクセスを分けて評価する。
ウ：この対応は正しい。CPの支援は一つの専門領域だけでは完結しにくい。
エ：この対応は正しい。CDCはCPを運動、姿勢、バランスへ影響する障害群として説明している。

総合解説：評価手段自体が障害にならないよう、アクセス方法を調整する必要がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0129

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：応用

問題

「脳性麻痺・運動発達」についてAACの必要性をCP症例から判断できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 脳性麻痺の基本概念を整理する：進行性筋疾患だけを指す / 痙直型CPを整理する：不随意運動だけが唯一の症状である

イ： ジスキネジア型CPを整理する：自分で制御しにくい不随意運動と変動する筋緊張 / 失調型CPを整理する：不随意運動だけが主症状である

ウ： AACの必要性をCP症例から判断できる：視線入力などを含むAAC評価を行い、発話と併用できる手段を検討する / CP支援で多職種連携が必要な理由を整理する：運動、姿勢、摂食嚥下、コミュニケーション、教育など複数領域の課題が相互に影響するため

エ： CPの運動発達を統合して評価できる：ことばが出るまで必ず評価を待つ / CPでコミュニケーション障害が生じ得る理由を整理する：運動障害が発声・構音やAAC操作に影響し、聴覚・視覚・認知の併存問題もあり得るため

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 CPは進行性筋疾患のものではない。 ジスキネジア型の特徴に近い。

イ： は正しいが に誤りがある。 ジスキネジア型の特徴に近い。

ウ： とともに正しい。 コミュニケーション能力と運動アクセスを分けて評価する。 CPの支援は一つの専門領域だけでは完結しにくい。

エ： に誤りがある。 早期評価が重要である。 は正しい。

総合解説：CP児では発話運動障害が強くても理解・認知が保たれることがあり、早期AACが参加を支える。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0130

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 脳性麻痺・運動発達 | 難易度：標準

問題

「脳性麻痺・運動発達」についてCP支援で多職種連携が必要な理由を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：脳性麻痺の基本概念を整理する：発達中の脳の異常発達や損傷により、運動・姿勢・バランスの障害を生じる一群の状態

イ：痙直型CPを整理する：筋緊張が高く、筋が硬くなりやすい

ウ：ジスキネジア型CPを整理する：自分で制御しにくい不随意運動と変動する筋緊張

エ：CP支援で多職種連携が必要な理由を整理する：運動以外の問題は生じないから

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。CDCはCPを運動、姿勢、バランスへ影響する障害群として説明している。

イ：この対応は正しい。痙直型はCPで最も多い病型で、筋緊張亢進を特徴とする。

ウ：この対応は正しい。ジスキネジア型ではゆっくりねじれる運動や急な運動、筋緊張の変動がみられる。

エ：この対応が誤りである。実際には多領域の課題があり得る。

総合解説：姿勢調整が発話や摂食に影響するなど、職種間で目標と方法を共有する必要がある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0131

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：基礎

問題

重複障害・感覚障害の学習で定義を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：重複障害評価の原則を整理する：全員に同じ検査形式を変更せず使用する
イ：重複障害の基本を整理する：複数の種類の障害を併せ有する児童生徒
ウ：聴覚障害が言語発達に影響し得ることを整理する：身長だけを見る
エ：視聴覚重複障害でコミュニケーション様式を評価できる：音声だけを唯一の手段とする

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。アクセス上の不利を生じる。
イ：この対応は適切である。文部科学省の学習指導要領では複数の種類の障害を併せ有する者を重複障害者としている。
ウ：この対応は不適切である。言語発達を把握できない。
エ：この対応は不適切である。本人に合わない場合がある。

総合解説：重複障害では一人一人の障害の組合せと教育的ニーズに応じた指導が必要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0132

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：標準

問題

「重複障害・感覚障害」に関する知識を横断して確認する。重複障害評価の原則を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：重複障害評価の原則を整理する：自然場面は評価しない
イ：聴覚障害が言語発達に影響し得ることを整理する：前言語コミュニケーション、受容・表出言語、発話、社会情緒発達など
ウ：視聴覚重複障害でコミュニケーション様式を評価できる：本人が情報を受け取り表出するために使える感覚・コミュニケーション様式を個別に確認する
エ：感覚障害と認知能力を統合して評価できる：視覚アクセスの制約が得点へ影響していないか確認し、代替形式で能力を評価する

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。機能的能力の把握に重要である。
イ：この対応は正しい。小児難聴では聞こえだけでなくコミュニケーション発達を広く確認する。
ウ：この対応は正しい。盲ろう児では残存感覚、触覚、身振り、シンボル等の利用方法を把握する。
エ：この対応は正しい。感覚障害が検査要求と重なると実力より低く測定されることがある。

総合解説：重複障害では包括的・継続的・機能的な評価が特に重要である。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0133

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：基礎

問題

「重複障害・感覚障害」の感覚障害を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：視聴覚重複障害でコミュニケーション様式を評価できる：音声だけを唯一の手段とする
イ：聴覚障害が言語発達に影響し得ることを整理する：前言語コミュニケーション、受容・表出言語、発話、社会情緒発達など
ウ：感覚障害と認知能力を統合して評価できる：低得点だけで知的発達症と確定する
エ：重複障害で自然環境評価を行う意義を整理する：検査室の結果は常に生活場面と完全一致するから

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は不適切である。本人に合わない場合がある。
イ：この対応は適切である。小児難聴では聞こえだけでなくコミュニケーション発達を広く確認する。
ウ：この対応は不適切である。検査形式の影響を除外できていない。
エ：この対応は不適切である。一致しないことがある。

総合解説：聴覚評価と発達・言語評価を組み合わせることで支援ニーズを把握する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0134

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：標準

問題

「重複障害・感覚障害」について視聴覚重複障害でコミュニケーション様式を評価するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：感覚障害と認知能力を統合して評価できる：視覚アクセスの制約が得点へ影響していないか確認し、代替形式で能力を評価する
イ：重複障害で自然環境評価を行う意義を整理する：環境や相手により使えるコミュニケーション手段や機能が変換があるため
ウ：小児難聴で検査方法を調整できる：運動反応を要求しすぎない回答方法を選び、聴覚・言語能力を分けて評価する
エ：視聴覚重複障害でコミュニケーション様式を評価できる：聴覚教材だけを必ず使う

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。感覚障害が検査要求と重なると実力より低く測定されることがある。
イ：この対応は正しい。自然場面では日常生活での実際の能力を把握しやすい。
ウ：この対応は正しい。重複障害では標準的手続きの修正が必要なことがある。
エ：この対応が誤りである。聴覚障害がある。

総合解説：コミュニケーション様式は本人ごとに異なり、複数の感覚モードを組み合わせることがある。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0135

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：応用

問題

「重複障害・感覚障害」について感覚障害と認知能力を統合して評価できるため、2つの知識を同時に判定する。両方正しいものはどれか。

ア： 感覚障害と認知能力を統合して評価できる：視覚アクセスの制約が得点へ影響していないか確認し、代替形式で能力を評価する / 重複障害で自然環境評価を行う意義を整理する：環境や相手により使えるコミュニケーション手段や機能が変えることがあるため

イ： 小児難聴で検査方法を調整できる：難聴だけを評価しコミュニケーションはみない / 重複障害へのAACを整理する：AAC導入前に発話が完全消失するまで待つ

ウ： 重複障害児の小さな反応を症例から評価できる：微細な反応の意味を家族や支援者と共有し、意図的コミュニケーションが継続的に観察する / 重複障害の教育で専門家連携が必要なことを整理する：障害の組合せに関係なく同じ教材を使う

エ： 重複障害の基本を整理する：一時的に欠席した児童生徒 / 重複障害評価の原則を整理する：視覚・聴覚・運動など各障害が評価方法へ与える影響を調整し、複数場面で能力をみる

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 感覚障害が検査要求と重なると実力より低く測定されることがある。 自然場面では日常生活での実際の能力を把握しやすい。

イ： に誤りを含む。 包括評価が必要である。 不要である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 教育的ニーズに応じ調整する。

エ： に誤りがある。 重複障害ではない。 は正しい。

総合解説：重複障害評価では『何を測りたいか』と『どの感覚・運動反応を要求しているか』を分けて考える。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0136

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：標準

問題

「重複障害・感覚障害」に関する知識を横断して確認する。重複障害で自然環境評価を行う意義を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：小児難聴で検査方法を調整できる：運動反応を要求しすぎない回答方法を選び、聴覚・言語能力を分けて評価する

イ：重複障害で自然環境評価を行う意義を整理する：障害が重いほど環境の影響を受けないから

ウ：重複障害へのAACを整理する：視覚的シンボルの見え方と、視線・スイッチなど操作方法を個別に試す

エ：重複障害児の小さな反応を症例から評価できる：微細な反応の意味を家族や支援者と共有し、意図的コミュニケーションが継続的に観察する

答え・解説

正答：イ

ア：この対応は正しい。重複障害では標準的手続きの修正が必要なことがある。

イ：この対応が誤りである。環境調整の影響は大きい。

ウ：この対応は正しい。AACでは感覚・運動アクセスの両方を評価する。

エ：この対応は正しい。重複障害では小さな行動が重要なコミュニケーション手掛かりとなることがある。

総合解説：NCDBは家庭・地域・学校を含む自然環境での包括的評価を重視している。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0137

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：基礎

問題

「重複障害・感覚障害」の聴覚・言語評価を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

ア：重複障害へのAACを整理する：AAC導入前に発話が完全消失するまで待つ
イ：重複障害児の小さな反応を症例から評価できる：反応を無視する
ウ：小児難聴で検査方法を調整できる：運動反応を要求しすぎない回答方法を選び、聴覚・言語能力を分けて評価する
エ：重複障害の教育で専門家連携が必要なことを整理する：一人の教師だけで全て判断する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。不要である。
イ：この対応は不適切である。重要な手掛かりを失う。
ウ：この対応は適切である。重複障害では標準の手続きの修正が必要なことがある。
エ：この対応は不適切である。多様な専門性が必要になる。

総合解説：ASHAは複数障害がある小児では評価手続きを調整する必要があるとしている。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0138

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：標準

問題

「重複障害・感覚障害」について重複障害へのAACを理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：重複障害へのAACを整理する：通常サイズの絵カードだけに限定する
イ：重複障害児の小さな反応を症例から評価できる：微細な反応の意味を家族や支援者と共有し、意図的コミュニケーションが継続的に観察する
ウ：重複障害の教育で専門家連携が必要なことを整理する：障害ごとの専門性を持つ教師や医療・福祉等の専門家が協力して個別指導を行う
エ：重複障害の基本を整理する：複数の種類の障害を併せ有する児童生徒

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。見え方に配慮していない。
イ：この対応は正しい。重複障害では小さな行動が重要なコミュニケーション手掛かりとなることがある。
ウ：この対応は正しい。文部科学省は重複障害児について専門的知識・技能を持つ教師間の協力や専門家の助言を求めている。
エ：この対応は正しい。文部科学省の学習指導要領では複数の種類の障害を併せ有する者を重複障害者としている。

総合解説：シンボルの種類、配置、コントラスト、アクセス方法などを本人に合わせて調整する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0139脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：応用

問題

「重複障害・感覚障害」の症例統合について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 重複障害児の小さな反応を症例から評価できる：微細な反応の意味を家族や支援者と共有し、意図的コミュニケーションが継続的に観察する / 重複障害の教育で専門家連携が必要なことを整理する：障害ごとの専門性を持つ教師や医療・福祉等の専門家が協力して個別指導を行う

イ： 重複障害の基本を整理する：学習成績が低い児童生徒全員 / 重複障害評価の原則を整理する：自然場面は評価しない

ウ： 聴覚障害が言語発達に影響し得ることを整理する：前言語コミュニケーション、受容・表出言語、発話、社会情緒発達など / 視聴覚重複障害でコミュニケーション様式を評価できる：音声だけを唯一の手段とする

エ： 感覚障害と認知能力を統合して評価できる：低得点だけで知的発達症と確定する / 重複障害で自然環境評価を行う意義を整理する：環境や相手により使えるコミュニケーション手段や機能が変わることもあるため

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 重複障害では小さな行動が重要なコミュニケーション手掛かりとなることがある。 文部科学省は重複障害児について専門的知識・技能を持つ教師間の協力や専門家の助言を求めている。

イ： に誤りを含む。 障害の種類とは別である。 機能的能力の把握に重要である。

ウ： は正しいが に誤りがある。 本人に合わない場合がある。

エ： に誤りがある。 検査形式の影響を除外できていない。 は正しい。

総合解説：評価は発見的・協働的に行い、本人に一貫した意味ある応答を返すことが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0140脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 重複障害・感覚障害 | 難易度：標準

問題

「重複障害・感覚障害」に関する知識を横断して確認する。重複障害の教育で専門家連携が必要なことを理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：重複障害の教育で専門家連携が必要なことを整理する：個別の指導計画を作らない

イ：重複障害の基本を整理する：複数の種類の障害を併せ有する児童生徒

ウ：重複障害評価の原則を整理する：視覚・聴覚・運動など各障害が評価方法へ与える影響を調整し、複数場面で能力をみる

エ：聴覚障害が言語発達に影響し得ることを整理する：前言語コミュニケーション、受容・表出言語、発話、社会情緒発達など

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。個別化が重要である。

イ：この対応は正しい。文部科学省の学習指導要領では複数の種類の障害を併せ有する者を重複障害者としている。

ウ：この対応は正しい。標準検査の形式が本人のアクセス方法に合わない場合、能力を過小評価する可能性がある。

エ：この対応は正しい。小児難聴では聞こえだけでなくコミュニケーション発達を広く確認する。

総合解説：教育内容・方法は一人一人の障害状態と発達段階に応じて柔軟に設定する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0141

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：基礎

問題

「家族・保育 / 学校・多職種連携」の家族支援を確認する。次の対応のうち、適切なものはどれか。

- ア：家族中心支援の基本を整理する：家族の価値観・生活・優先事項を確認し、専門家と協働して支援目標を決める
- イ：保育・学校との情報共有を整理する：医療用語だけを伝える
- ウ：個別の教育支援計画の移行支援を整理する：診断名だけを残すため
- エ：多職種連携の役割分担を整理する：全職種が同じ評価だけを繰り返す

答え・解説

正答：ア

- ア：この対応は適切である。子どもの生活を最もよく知る家族との協働は支援の実効性を高める。
- イ：この対応は不適切である。実際の支援に結びつきにくい。
- ウ：この対応は不適切である。具体的支援情報が重要である。
- エ：この対応は不適切である。役割分担が不十分である。

総合解説：家庭で実行可能な方法を共に考え、負担と効果を継続的に確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0142

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：標準

問題

「家族・保育 / 学校・多職種連携」について保育・学校との情報共有を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

- ア：個別の教育支援計画の移行支援を整理する：有効だった配慮や支援を次の教育段階へつなぎ、一貫した支援を行うため
- イ：多職種連携の役割分担を整理する：各職種が専門性を持ち寄り、共通目標と役割を確認して支援する
- ウ：学校支援を機能的目標へ結びつけられる：発話訓練に加え、AACや回答時間の確保など教室参加を保障する方法を学校と検討する
- エ：保育・学校との情報共有を整理する：本人の強みは共有しない

答え・解説

正答：エ

- ア：この対応は正しい。移行期の情報共有は支援の中断を防ぐ。
- イ：この対応は正しい。運動、摂食嚥下、コミュニケーション、教育などの課題を連携して扱う。
- ウ：この対応は正しい。機能訓練だけでなく活動・参加を直接支える必要がある。
- エ：この対応が誤りである。支援設計に重要である。

総合解説：必要な範囲で情報共有し、家庭・学校・医療の目標をつなぐ。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0143

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：基礎

問題

家族・保育 / 学校・多職種連携の学習で教育制度を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。

ア：多職種連携の役割分担を整理する：全職種が同じ評価だけを繰り返す
イ：学校支援を機能的目標へ結びつけられる：発話が明瞭になるまで授業参加を待つ
ウ：個別の教育支援計画の移行支援を整理する：有効だった配慮や支援を次の教育段階へつなぎ、一貫した支援を行うため
エ：保護者への説明のあり方を整理する：できない点だけを列挙する

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は不適切である。役割分担が不十分である。
イ：この対応は不適切である。教育機会を奪う。
ウ：この対応は適切である。移行期の情報共有は支援の中断を防ぐ。
エ：この対応は不適切である。強みと支援可能性も重要である。

総合解説：合理的配慮や支援内容は発達・環境変化に応じて引き継ぎと見直しを行う。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0144

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：標準

問題

「家族・保育 / 学校・多職種連携」に関する知識を横断して確認する。多職種連携の役割分担を理解するうえで誤っている対応はどれか。

ア：多職種連携の役割分担を整理する：目標を共有せず別々に支援する
イ：学校支援を機能的目標へ結びつけられる：発話訓練に加え、AACや回答時間の確保など教室参加を保障する方法を学校と検討する
ウ：保護者への説明のあり方を整理する：専門用語を分かりやすく説明し、強み・困難・次の支援策を具体的に共有する
エ：合理的配慮の見直しを整理する：発達や学習状況の変化に応じ、本人・保護者と相談しながら柔軟に見直す

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。一貫性を欠く。
イ：この対応は正しい。機能訓練だけでなく活動・参加を直接支える必要がある。
ウ：この対応は正しい。結果説明は家族の理解と意思決定を支える形で行う。
エ：この対応は正しい。文部科学省は合理的配慮の継続評価と柔軟な見直しを求めている。

総合解説：チーム内では情報共有、役割、優先順位を明確にする。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0145

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：応用

問題

「家族・保育 / 学校・多職種連携」の支援計画について、2つの対応がともに正しい組合せはどれか。

ア： 学校支援を機能的目標へ結びつけられる：発話訓練に加え、AACや回答時間の確保など教室参加を保障する方法を学校と検討する / 保護者への説明のあり方を整理する：専門用語を分かりやすく説明し、強み・困難・次の支援策を具体的に共有する

イ： 合理的配慮の見直しを整理する：本人の使用感は確認しない / 家族・学校・医療の目標を調整できる：各機関が互いの目標を知らないまま進める

ウ： 移行期支援を症例から考えられる：移行前からAACの操作・語彙・有効な関わり方を新しい学校と共有し、試行期間を設ける / 小児支援の最終目標を整理する：検査得点を上げることだけ

エ： 家族中心支援の基本を整理する：専門家が家庭事情を聞かず一方的に決める / 保育・学校との情報共有を整理する：教室で困る言語課題、効果的な提示方法、支援目標、本人の強み

答え・解説

正答：ア

ア： とも正しい。 機能訓練だけでなく活動・参加を直接支える必要がある。 結果説明は家族の理解と意思決定を支える形で行う。

イ： に誤りを含む。 重要な評価情報である。 連携にならない。

ウ： は正しいが に誤りがある。 生活上の意味を考慮する。

エ： に誤りがある。 家族中心支援ではない。 は正しい。

総合解説：学校支援では本人が実際に意思表示できる環境を整えることが重要である。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0146

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：標準

問題

「家族・保育 / 学校・多職種連携」について保護者への説明のあり方を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：保護者への説明のあり方を整理する：家族の懸念を聞かない

イ：合理的配慮の見直しを整理する：発達や学習状況の変化に応じ、本人・保護者と相談しながら柔軟に見直す

ウ：家族・学校・医療の目標を調整できる：各目標の関係を整理し、本人にとって優先度の高い共通目標へ統合する

エ：移行期支援を症例から考えられる：移行前からAACの操作・語彙・有効な関わり方を新しい学校と共有し、試行期間を設ける

答え・解説

正答：ア

ア：この対応が誤りである。重要な情報である。

イ：この対応は正しい。文部科学省は合理的配慮の継続評価と柔軟な見直しを求めている。

ウ：この対応は正しい。異なる専門領域の目標を本人の生活目標へ結びつけることが重要である。

エ：この対応は正しい。移行支援では必要な支援が新環境でも継続できる準備が重要である。

総合解説：家族の受け止めや価値観に配慮し、必要に応じ資料や相談先を提示する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0147

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：基礎

問題

家族・保育 / 学校・多職種連携の学習で教育支援を行う。次の整理のうち正しいものはどれか。ここでは「合理的配慮・見直し」との関連を手掛かりに整理する。

ア：家族・学校・医療の目標を調整できる：各機関が互いの目標を知らないまま進める
イ：移行期支援を症例から考えられる：家族だけに新環境への調整を任せる
ウ：小児支援の最終目標を整理する：全員を同じコミュニケーション様式にすること
エ：合理的配慮の見直しを整理する：発達や学習状況の変化に応じ、本人・保護者と相談しながら柔軟に見直す

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は不適切である。連携にならない。
イ：この対応は不適切である。学校・専門職との連携が必要である。
ウ：この対応は不適切である。個人差と自己決定を尊重する。
エ：この対応は適切である。文部科学省は合理的配慮の継続評価と柔軟な見直しを求めている。

総合解説：配慮は提供そのものが目的ではなく、教育へのアクセスが改善したかを確認する。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0148

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：標準

問題

「家族・保育 / 学校・多職種連携」に関する知識を横断して確認する。家族・学校・医療の目標を調整できるうえで誤っている対応はどれか。

ア：移行期支援を症例から考えられる：移行前からAACの操作・語彙・有効な関わり方を新しい学校と共有し、試行期間を設ける
イ：小児支援の最終目標を整理する：本人が家庭・学校・地域で意思を伝え、学び、参加し、自分らしく生活できること
ウ：家族中心支援の基本を整理する：家族の価値観・生活・優先事項を確認し、専門家と協働して支援目標を決める
エ：家族・学校・医療の目標を調整できる：本人の希望を確認しない

答え・解説

正答：エ

ア：この対応は正しい。移行支援では必要な支援が新環境でも継続できる準備が重要である。
イ：この対応は正しい。訓練室内の能力だけでなく生活上の活動・参加を重視する。
ウ：この対応は正しい。子どもの生活を最もよく知る家族との協働は支援の実効性を高める。
エ：この対応が誤りである。本人中心支援に反する。

総合解説：多職種連携では、機能改善と活動・参加の目標を一貫させる。同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0149

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：応用

問題
家族・保育 / 学校・多職種連携の関連概念を複合的に確認する。2項目とも適切な組合せはどれか。

ア： 家族中心支援の基本を整理する：家族に全ての訓練責任を負わせる / 保育・学校との情報共有を整理する：本人の強みは共有しない
イ： 個別の教育支援計画の移行支援を整理する：有効だった配慮や支援を次の教育段階へつなぎ、一貫した支援を行うため / 多職種連携の役割分担を整理する：全職種が同じ評価だけを繰り返す
ウ： 移行期支援を症例から考えられる：移行前からAACの操作・語彙・有効な関わり方を新しい学校と共有し、試行期間を設ける / 小児支援の最終目標を整理する：本人が家庭・学校・地域で意思を伝え、学び、参加し、自分らしく生活できること
エ： 学校支援を機能的目標へ結びつけられる：発話が明瞭になるまで授業参加を待つ / 保護者への説明のあり方を整理する：専門用語を分かりやすく説明し、強み・困難・次の支援策を具体的に共有する

答え・解説

正答：ウ

ア： に誤りを含む。 協働ではない。 支援設計に重要である。
イ： は正しいが に誤りがある。 役割分担が不十分である。
ウ： とともに正しい。 移行支援では必要な支援が新環境でも継続できる準備が重要である。 訓練室内の能力だけでなく生活上の活動・参加を重視する。
エ： に誤りがある。 教育機会を奪う。 は正しい。

総合解説：個別の教育支援計画と実際のコミュニケーション方法を引き継ぎ、環境に合わせて調整する。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08

0150

脳性麻痺・重複障害・小児支援 > 家族・保育 / 学校・多職種連携 | 難易度：標準

問題
「家族・保育 / 学校・多職種連携」について小児支援の最終目標を理解するために関連概念を整理した。誤りを含む対応はどれか。

ア：家族中心支援の基本を整理する：家族の価値観・生活・優先事項を確認し、専門家と協働して支援目標を決める
イ：保育・学校との情報共有を整理する：教室で困る言語課題、効果的な提示方法、支援目標、本人の強み
ウ：小児支援の最終目標を整理する：障害を隠すこと
エ：個別の教育支援計画の移行支援を整理する：有効だった配慮や支援を次の教育段階へつなぎ、一貫した支援を行うため

答え・解説

正答：ウ

ア：この対応は正しい。子どもの生活を最もよく知る家族との協働は支援の実効性を高める。
イ：この対応は正しい。診断名だけでなく具体的な学習・コミュニケーション上の支援方法を共有する。
ウ：この対応が誤りである。支援の目的ではない。
エ：この対応は正しい。移行期の情報共有は支援の中断を防ぐ。

総合解説：支援は機能改善、環境調整、家族・学校支援を組み合わせ本人の参加を高める。 同じ細分類内の関連概念もあわせて区別することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-08